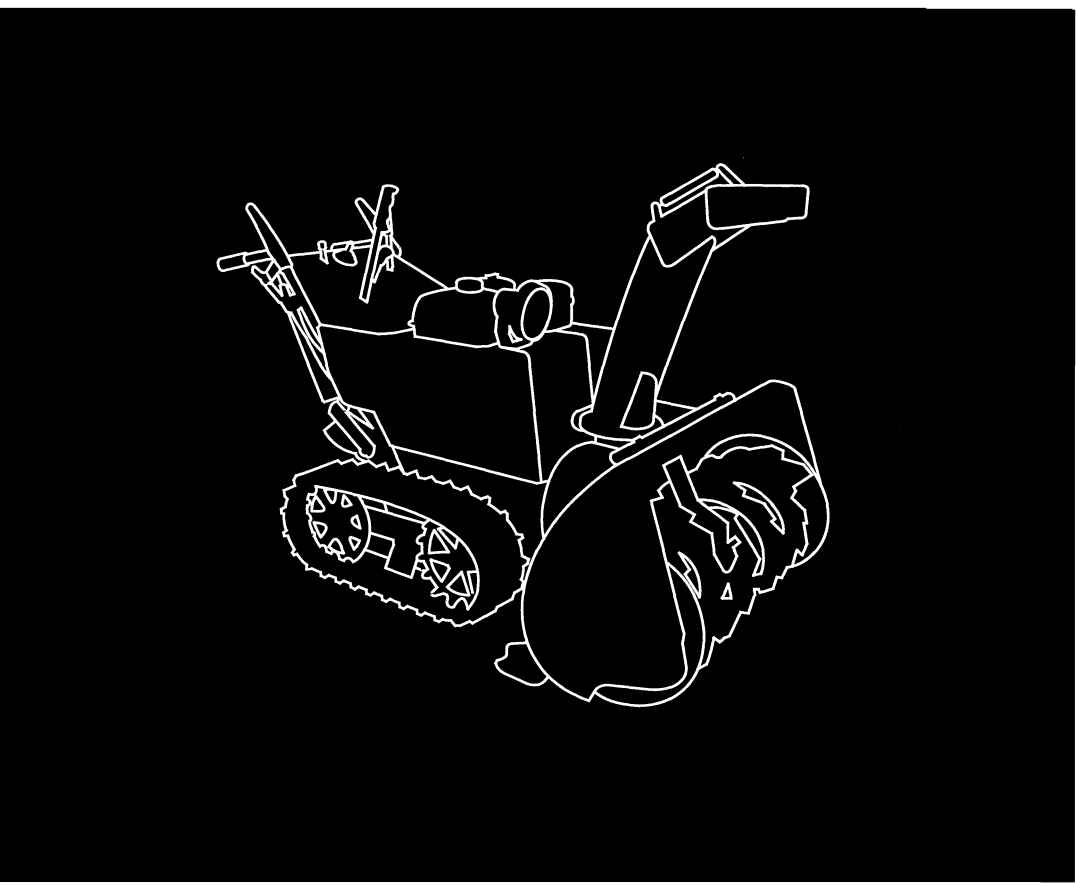
HONDA
汎用製品

除雪機
HS980・HS1180Z
HS1190・HS1390Z
取扱説明書



ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

Honda除雪機をお買いあげいただき誠にありがとうございます。お買いあげいただきました商品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、**お買いあげいただいた販売店**にお気軽にお申しつけください。

●一般公道では使用できません。

取扱説明書について

この取扱説明書は

－除雪作業をするときは、必ず携帯してください。

－除雪機を貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。

－紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店またはHonda汎用営業所にご注文ください。

はじめに

この取扱説明書は、お買いあげいただいた除雪機で安全かつ能率的な除雪作業をする手助けとして編集されたものです。
取扱説明書の中には、本機の正しい取扱い方法、簡単な点検及び手入れについて説明してあります。
本機を運転する前にこの取扱説明書を良くお読みいただき、本機の操作に習熟してください。

安全に関する表示について
本書では、運転者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他の物が損傷する可能性があるもの

なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。
本書はHS1190を中心に編集しています。

目　　次

安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう ・・・・・・・・・・・・・・ 4
安全ラベル ・・・・・・・・・・・・・・

4. 運転操作 ……36
5. 除雪部の傾き調節 ……40
6. 除雪のしかた ……41

除雪機の止めかた ……44

定期手入れを行いましょう ……47
日常点検 ……47
定期点検 ……48

やさしい点検・整備 ……49
エンジン　オイルの交換 ……49
点火プラグの点検、調整 ……51
クローラ張り調整 ……52
除雪部の点検 ……53
バッテリ ……54
ヒューズについて ……56
投雪口が作動しないときは ……57
各部の作動点検 ……57

運搬するときは ……58

長期間使用しないときの手入れ ……60

故障のときは ……64

主要諸元 ……65

配線図 ……67

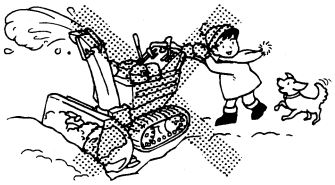
安全にお使いいただくために

⚠警告

あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●作業を始める前に

- 過労や飲酒、薬物を服用して除雪機を使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
- この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分ご理解の上自分で操作してください。
- 間違いなく取扱うために各部操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
- エンジンを始動する前に必ず「エンジンをかける前の点検」(23～28頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
- 悪天候などで視界の悪いときは作業をしないでください。事故の危険性が高くなります。
- 適切な指示なしでは絶対に誰にも除雪機の運転操作をさせないでください。特に子供には操作させないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。



- カバーやラベル類、その他の部品を外して除雪機を操作しないでください。また誤った部品を取付けたり改造をしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
- 本機は除雪以外の目的で使用しないでください。故障の原因となるばかりでなく、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。
- 除雪作業を行う前に除雪しようとする場所を点検してください。ケガや除雪機の故障の原因となることがあるので石、棒、板、針金などの障害物を取除いてください。また降雪した後で障害物が見えなくなる場合があるのでシーズン前に予め除雪する場所の障害物を取除くようにしてください。



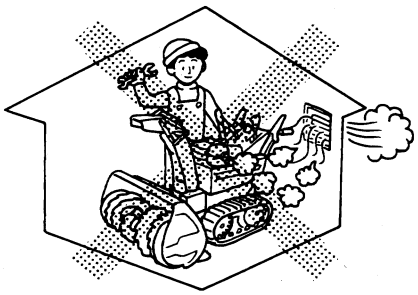
これだけはぜひ守りましょう

⚠警告

- 砂利道などの除雪は、石の飛び出しなど非常に危険を伴いますので除雪しないでください。
- 定められた点検を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理をしておき、不備な状態での使用は絶対に行わないでください。
- ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
- 燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花など火気を近づけないでください。
- 燃料をこぼさないように注意し、給油限界位置を超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。



- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。



- 屋根に積った雪や急斜面での除雪は行わないでください。除雪機が転倒して作業者や近くにいる人にケガをさせることがあります。

⚠警告

●作業中の注意

- 除雪部は回転しており誤って触れると大ケガをするおそれがあるので、手足などを絶対に近づけないようにしてください。また、作業範囲に人や動物が近づかないように十分注意してください。人や動物が近づいたときは除雪をやめてください。
- 除雪部分や投雪口は危険ですので顔や手足などを絶対に近づけないでください。
- 投雪方向を人や建物等に向けて使用しないでください。投雪方向の調節は状況に応じて適切に行ってください。
- 万一、雪の中に石などの異物が混じっている場合は、それらが投雪口からだけでなく、除雪部から前方に投げ出されることがあるので、前方にも常に注意してください。
- 除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。

  エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。



⚠警告

- 急発進は、絶対に行わないでください。思わぬ事故の原因となることがあるので必ず変速レバーを低速側または高速側のニュートラル　ポイント（16頁参照）の位置にしてから走行クラッチ　レバーを握り、徐々に変速レバーを操作してください。
- 雪の上での作業は滑りやすく、転倒するおそれがあります。除雪中は足元に注意しハンドルをしっかりと握り、決して走らないでください。また方向転回時は、必ず本機を水平にし十分速度を落として行ってください。特に後進時には、足元および後方に十分注意してください。
- 共同作業は行わないでください。思わぬ事故を招くことがあります。
- 除雪中障害物に当ったときはすぐにエンジンを止め、点火プラグ　キャップを取外し（51頁参照）、回転部が停止していることを確認してから注意して損傷を調べてください。修理しないで再始動すると思わぬ事故につながります。
- 駐車をするときは平坦な場所を選んで駐車してください。傾斜地に駐車すると、本機が空走し事故の原因になります。

⚠警告

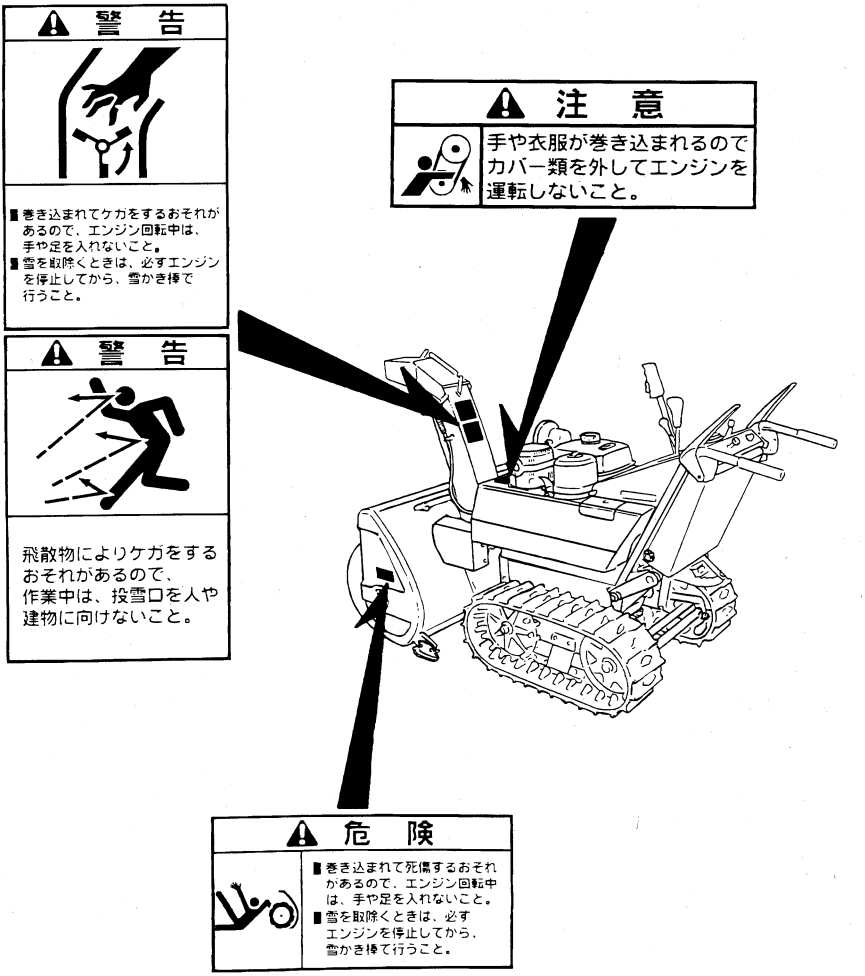
●作業が終ったら

- 本機から離れるときには、オーガ　ハウジングを路面に接地させ、必ずエンジンを止め、エンジン　スイッチ　キーを外してください。いたずらなどで本機が動きだし、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
- 本機を室内に格納するときは火災の原因とならないように、エンジンが冷えたのを確認してからボディ　カバーなどをかけて格納してください。
- 長期保管前には、タンク内の燃料を抜きとり本機を火気のない所に保管してください。また抜いた燃料は引火性があり、火災や爆発のおそれがありますので所定の燃料タンクなどに保管してください。
- 点検や清掃をするときは必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチを“停止”位置にし、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。また、エンジン停止直後のエンジン本体やマフラなどは非常に熱くなっています。やけどをしないように、各部が十分に冷えてから作業を行ってください。

安全ラベル

除雪機を安全に使用していただくため、本機は安全ラベルが貼ってあります。安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。

本機に貼ってあるラベルが、破れ、紛失、汚れなどで読めなくなってしまったときは新しいラベルに貼り替えてください。また安全ラベルが貼られている部品を交換する場合は、ラベルも新しい物を貼ってください。安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。



⚠ 注　意

ヤケドをするのでマフラーにふれないこと。

⚠ 警　告

火災や爆発により死傷するおそれがあるので、
- 給油時にはエンジンを停止すること。
- 給油口に火を近づけないこと。

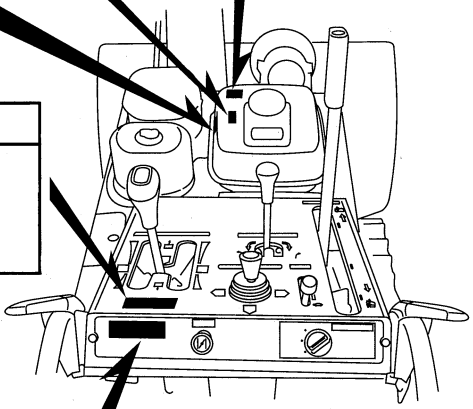
火気厳禁

⚠ 警　告

排気ガスによる中毒のおそれがあるので、換気の悪い所で使用しないこと。

⚠ 警　告

はさまれてケガをするおそれがあるので、
後進するときは必ず後ろを確認して、
走行クラッチレバーを「入」位置にすること。

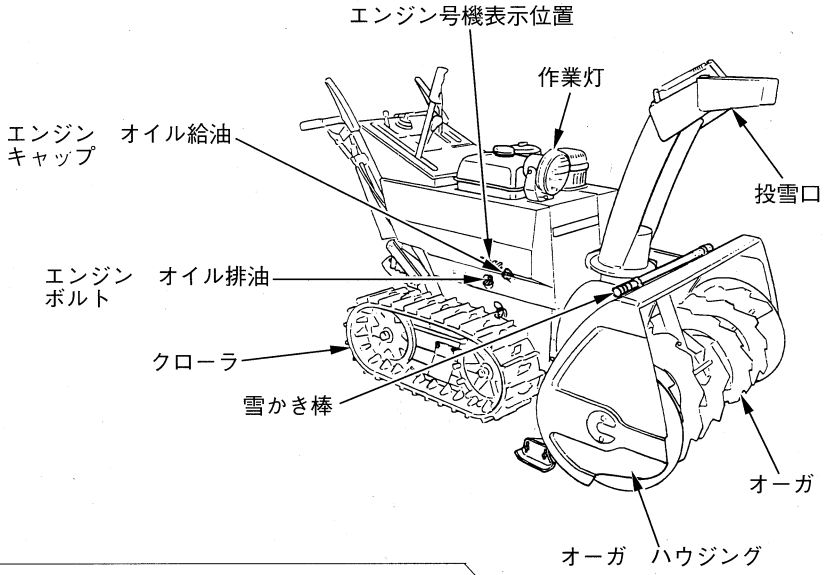


⚠ 警　告

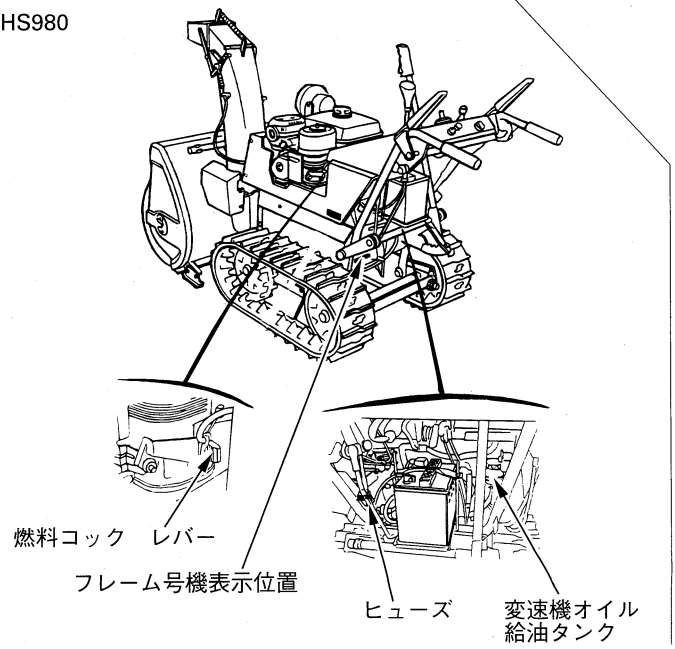
死傷事故防止のため、下記および取扱説明書を読み、理解して正しく取扱うこと。
- 急発進防止のためエンジンを始動するときは、全てのクラッチを切り、変速レバーを中立にすること。
- 点検整備時はエンジンを停止すること。

各部の名称と取扱いをおぼえましょう

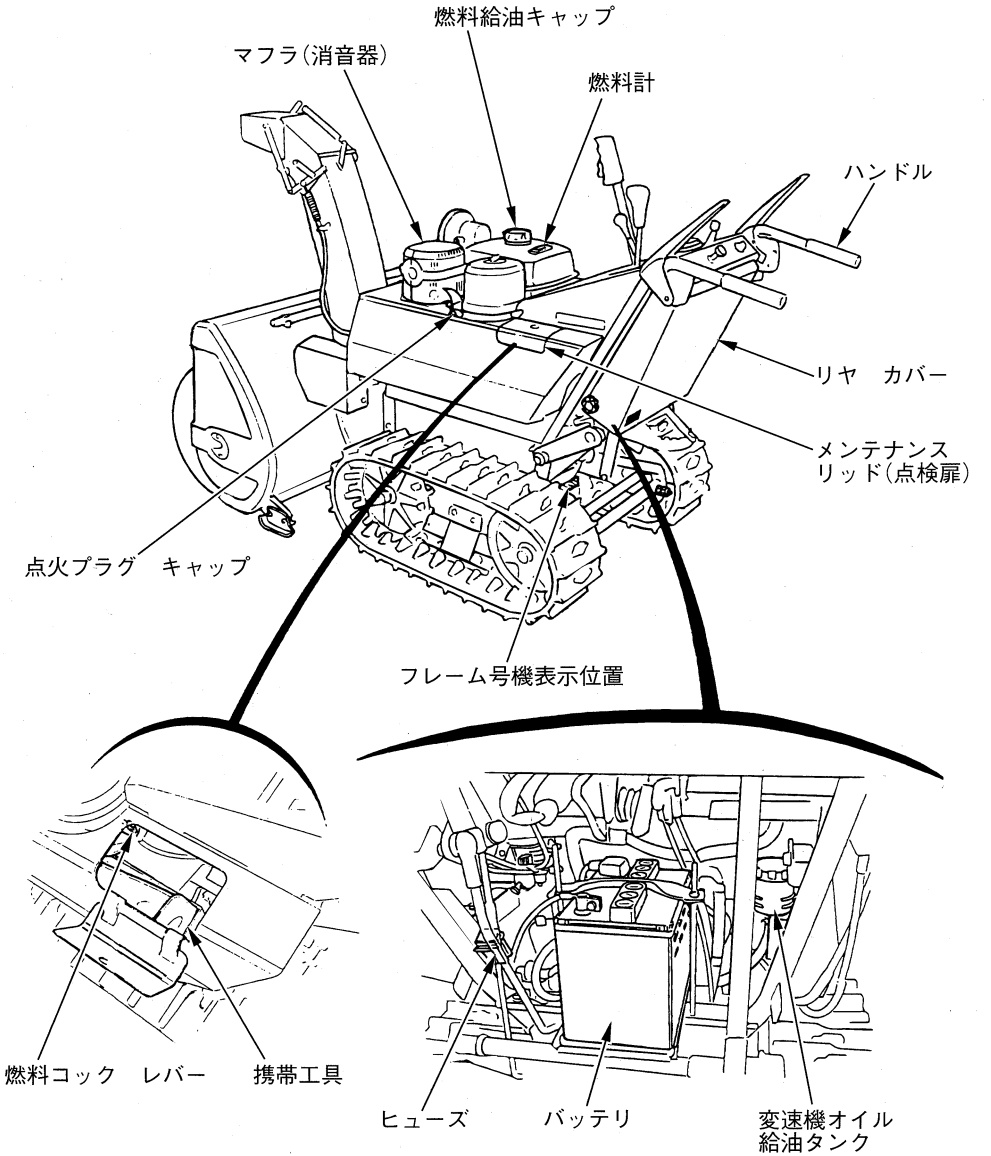
HS1190/*HS1390Z/*HS1180Z
＊は一部イラストが異なります。



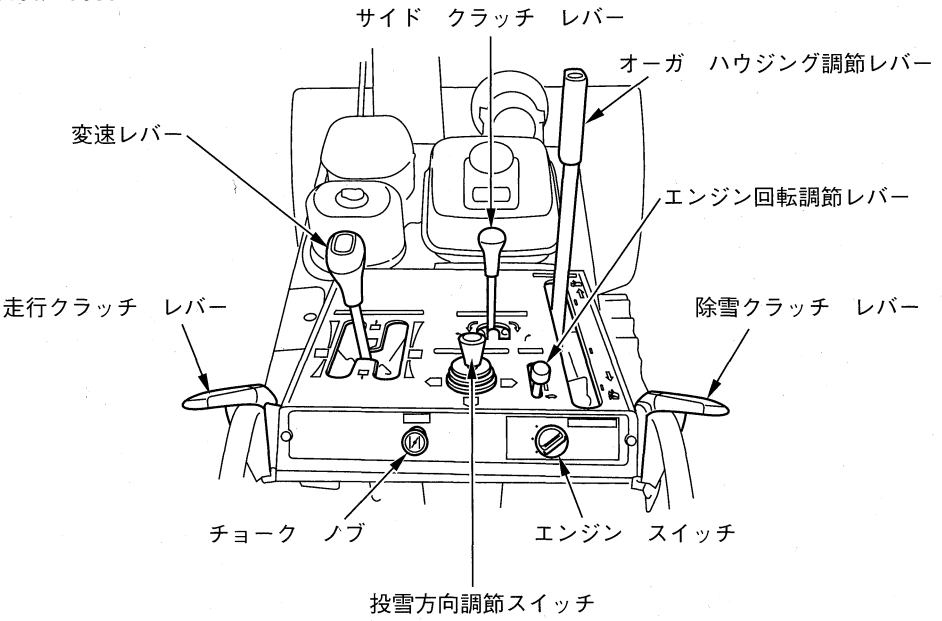
HS980



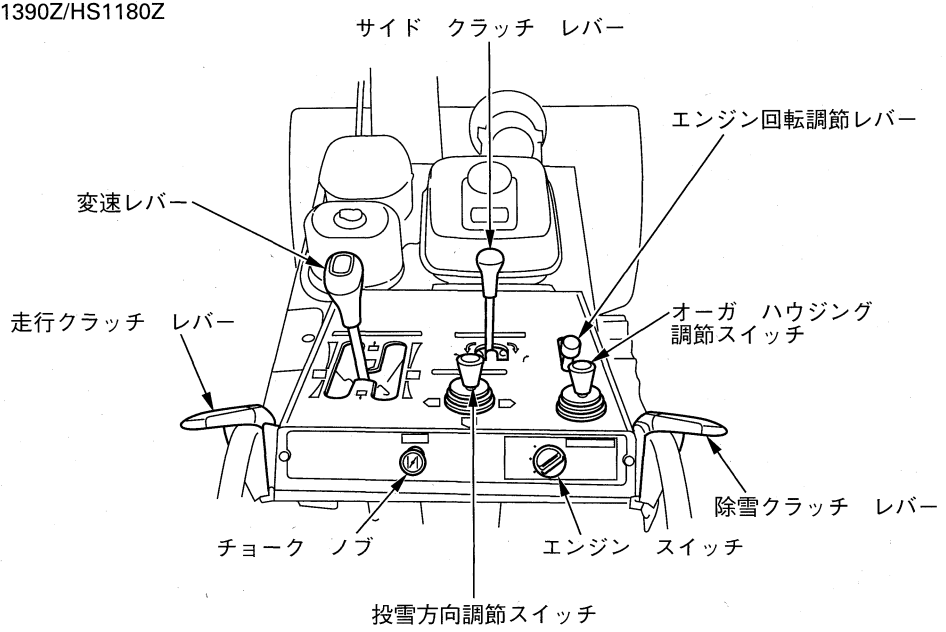
HS1190/*HS1390Z/*HS1180Z
＊は一部イラストが異なります。



HS1190/HS980



HS1390Z/HS1180Z



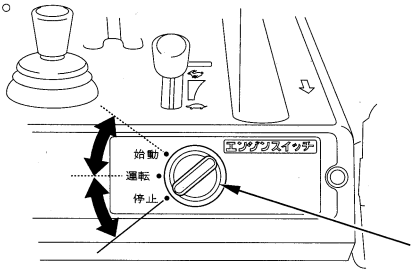
エンジン　スイッチ

エンジンを始動、運転、停止するときに操作します。

停止・・・・ エンジンを停止する位置です。(キーの抜き取り、差し込みができます。)

運転・・・・ エンジン運転中の位置です。各電気系統がつながります。

始動・・・・ エンジンを始動させるときこの位置まで回します。スタータ　モータが回ります。エンジンが始動したらキーから手を離してください。自動的に**"運転"**の位置に戻ります。

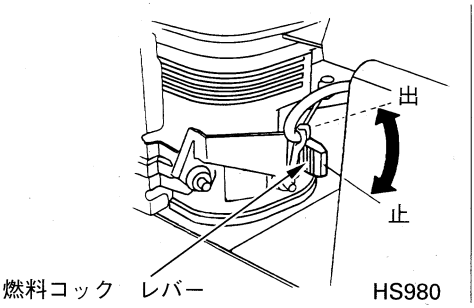


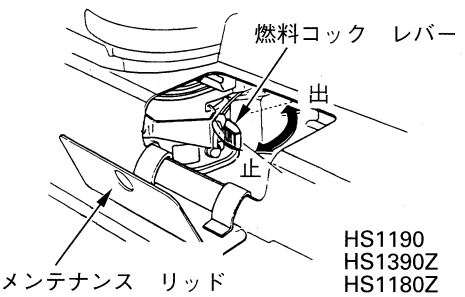
燃料コック　レバー

燃料タンクからキャブレータ(気化器)までの燃料通路を開閉するときに操作します。

操作は確実に**"止""出"**の位置に合わせます。

HS1190/HS1390Z/HS1180Zはメンテナンス　リッドを開けて操作します。



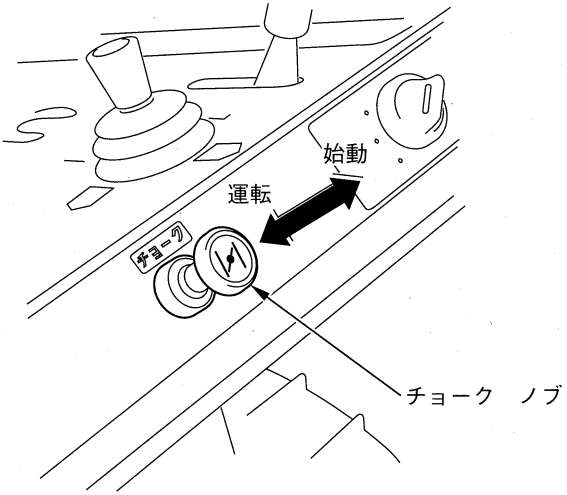


⚠警告

- 本機を運搬するときや、保管及び点検整備時本機が傾く可能性のある場合には、燃料漏れを防ぐためにレバーを**"止"**の位置に合わせてください。こぼれた燃料が引火することがあります。
- エンジン回転中は、メンテナンス　リッドを開けないでください。(HS980を除く)

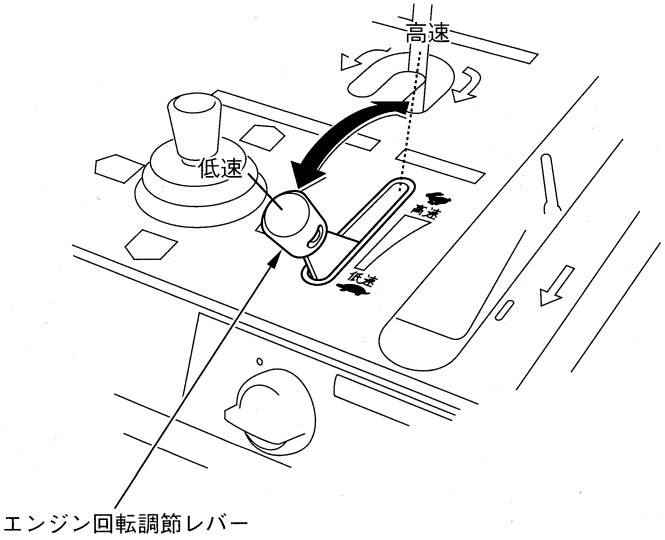
チョーク　ノブ

エンジンが冷えているときに操作します。



エンジン回転調節レバー

エンジン回転を調節するときに操作します。通常は**“高速”**の位置でご使用ください。



変速レバー

本機を前進、後進するときに操作します。

低速側(作業用)、高速側(移動用)に分かれそれぞれ、前進、後進の速度を無段階に調節することができます。

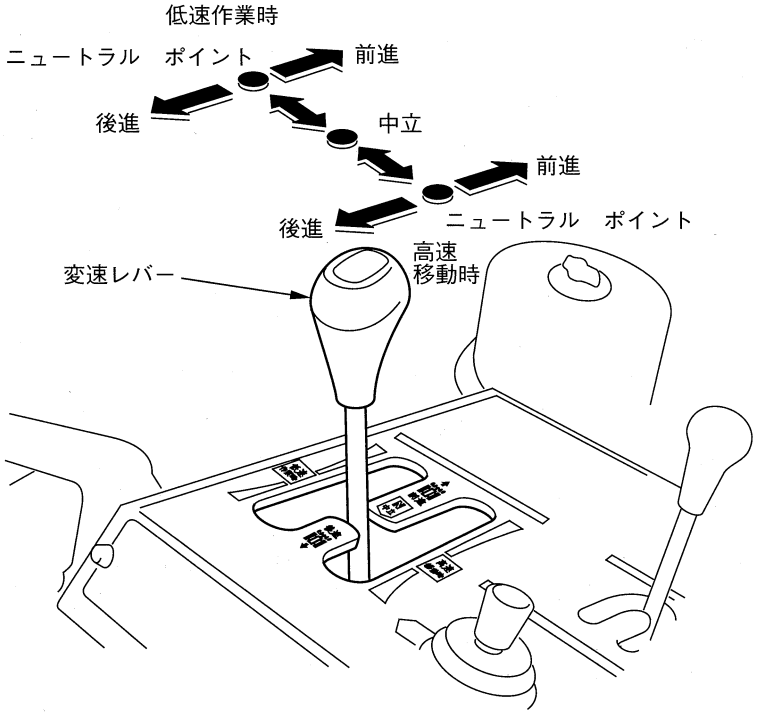
前進するときは‥‥ニュートラル　ポイントの位置から前方へ徐々に動かします。

後進するときは‥‥ニュートラル　ポイントの位置から後方へ徐々に動かします。

本機を使用しないときは低速側または高速側のニュートラル　ポイントの位置にしてください。

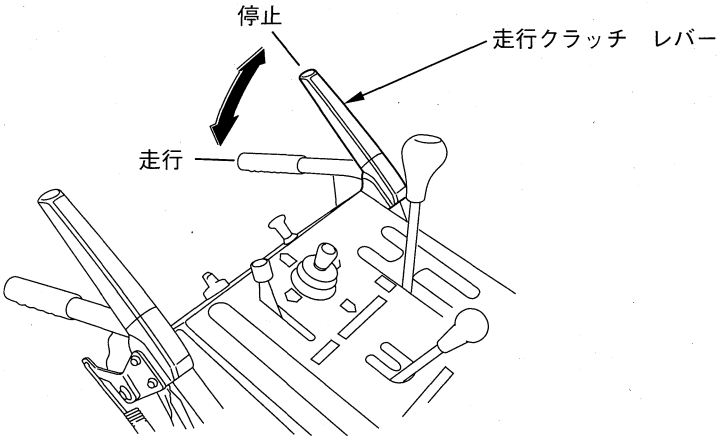
⚠警告

斜面で変速レバーを“N”(中立)の位置にすると本機が空走することがあります。



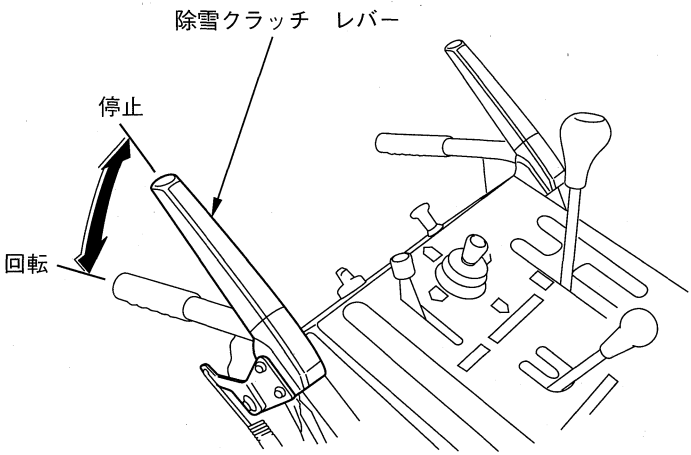
走行クラッチ　レバー

走行クラッチ　レバーを握ると走行し､離すと止まります。



除雪クラッチ　レバー

除雪クラッチ　レバーを握るとオーガとブロアが回転します｡レバーを離せば数秒後に止まります。



除雪クラッチ　レバーと走行クラッチ　レバーを連動して作動させることができます。(39頁参照)

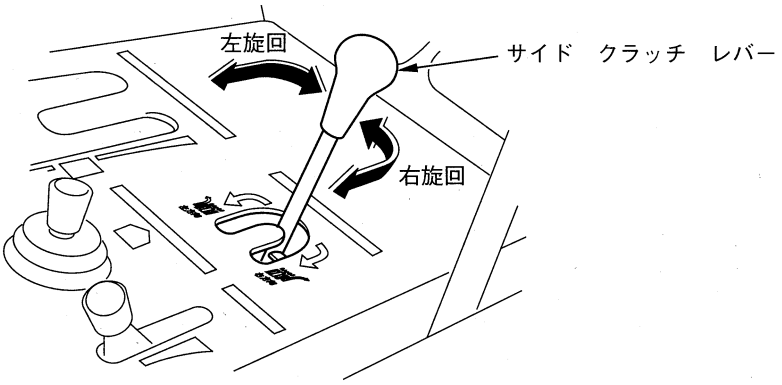
サイド　クラッチ　レバー

本機の方向を変えるときに操作します。

サイド　クラッチ　レバーを旋回しようとする方向に倒して引くと、引いた方向に本機は旋回します。

右旋回 ……サイド　クラッチ　レバーを右に倒して引きます。

左旋回 ……サイド　クラッチ　レバーを左に倒して引きます。



⚠警告

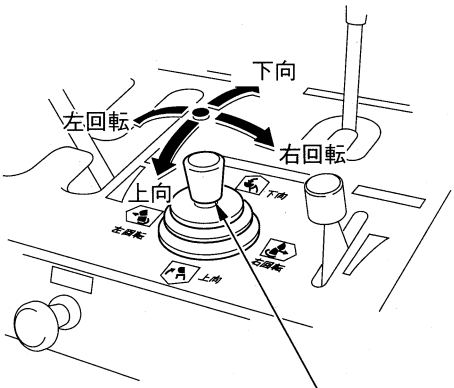
- 旋回するときは、十分スピードを落としてください。雪の上での作業は滑りやすく転倒するおそれがあります。
- サイド　クラッチ　レバーを操作するときは、周囲の安全を十分確認してください。また、旋回時は本機の位置が急激に変化します。ハンドルや操作パネルに体が触れないよう注意してください。思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

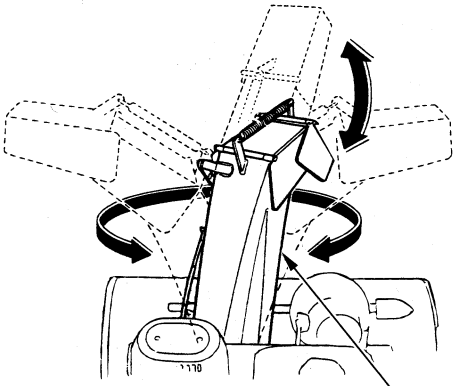
投雪方向調節スイッチ

投雪距離と方向を変えるときに操作します。

エンジン　スイッチを“運転”の位置にし、スイッチを操作することによって投雪口を上下、左右に無段階に調節することができます。

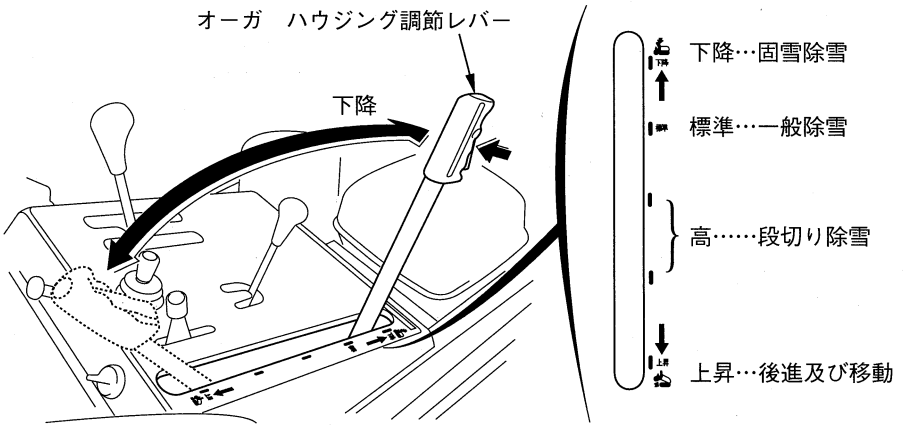
投雪方向調節スイッチはエンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリが消耗します。





オーガ　ハウジング調節レバー（HS1190/HS980）

除雪部の高さを調節するときに操作します。
除雪部の高さを５段階に調節することができます。（34頁参照）



オーガ　ハウジング調節スイッチ（HS1390Z/HS1180Z）

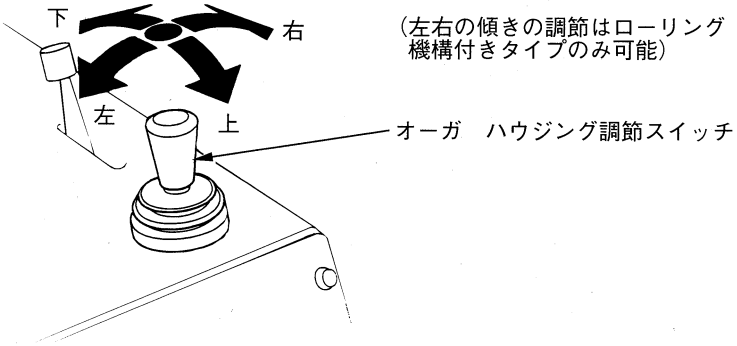
- **ローリング機構（除雪部の左右の傾きを調節する機構）付きタイプ**

  除雪部の高さと左右の傾きを調節するときに操作します。
  除雪部を上下、左右無段階に調節することができます。（35、40頁参照）

- **ローリング機構無しタイプ**

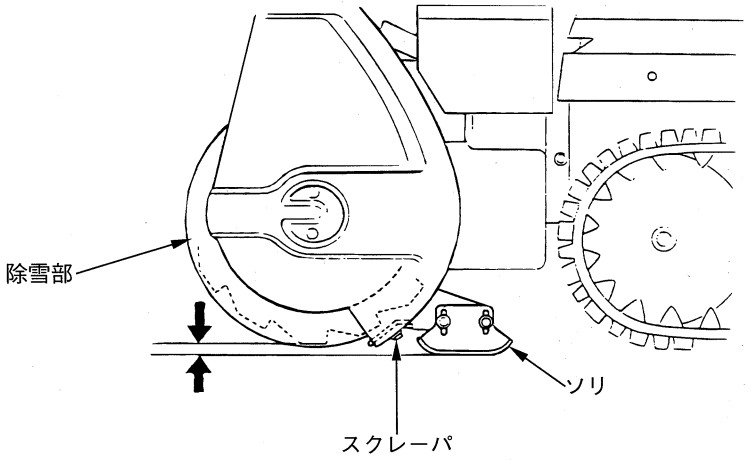
  除雪部の高さを調節するときに操作します。
  除雪部を上下無段階に調節することができます。（35頁参照）

オーガ　ハウジング調節スイッチはエンジンが運転しているときに操作してください。エンジン停止中に操作するとバッテリが消耗します。



ソリ、スクレーパ

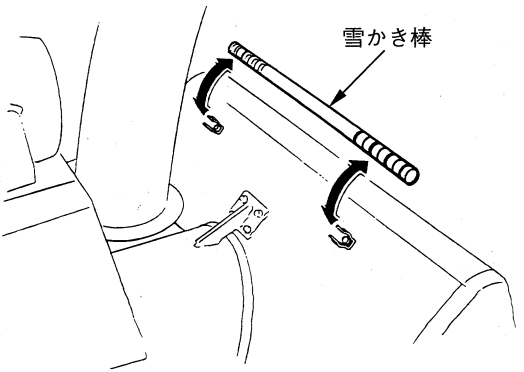
除雪する路面の状態に合わせて調節してください。ソリは除雪部と路面との高さを決め、スクレーパは除雪面をならします。調節のしかたは、33頁を参照してください。



雪かき棒

雪が除雪部や投雪口に詰まったときに使用します。

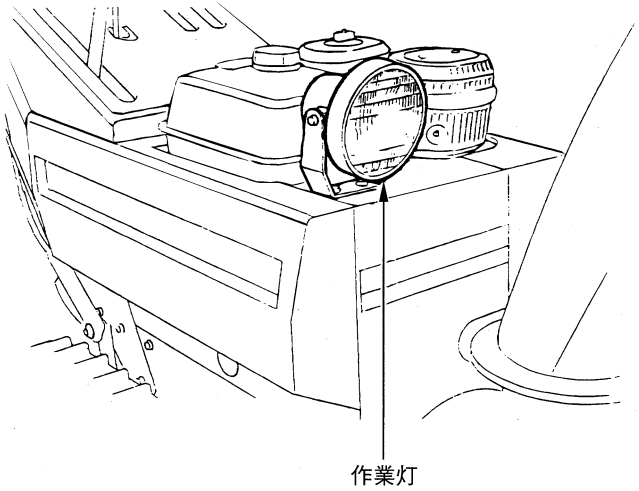
雪かき棒を使用した後は汚れを拭き取り、きれいにしてから必ず元の取付け位置にセットしてください。



作業灯

エンジンを始動すると自動的に点灯し、エンジンを停止すると消灯します。

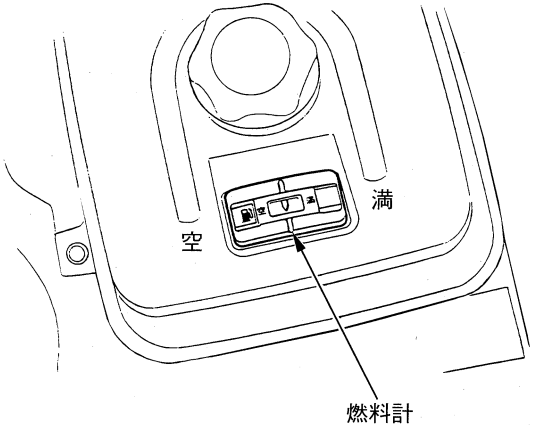
エンジン スイッチを“運転”の位置にしただけでは点灯しません。



燃料計

燃料の残量を示します。

燃料計の針が“空”に近づいたら早目に燃料を補給してください。



エンジンをかける前に点検しましょう

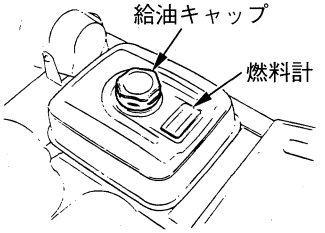
⚠警告

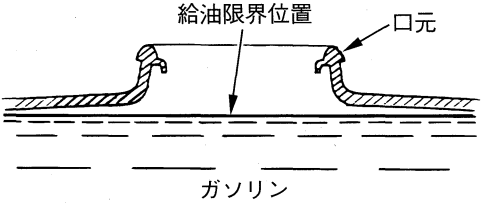
点検は平坦な場所でエンジンを水平にしエンジンを止めて行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ　キャップをはずして行ってください。

ガソリンの点検

点検

燃料計の針が**"満"**の位置にあるか確認します。少ないときには図の位置まで補給してください。





補給

使用燃料：自動車用無鉛ガソリン
タンク容量：HS980.....6.0ℓ
HS1190/HS1390Z/HS1180Z..... 6.5ℓ

1.給油キャップを外し、図の位置(給油限界位置)を超えないように補給します。
2.補給後、給油キャップを完全に締付けてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
ガソリンを補給するときは
・エンジンを停止してください。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・ガソリンはこぼさないように補給してください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り火災と環境に注意して処分してください。
・燃料は注入口の口元まで入れず給油限界を超えないように補給してください。入れすぎるとガソリンが燃料給油キャップからにじみ出ることがあります。

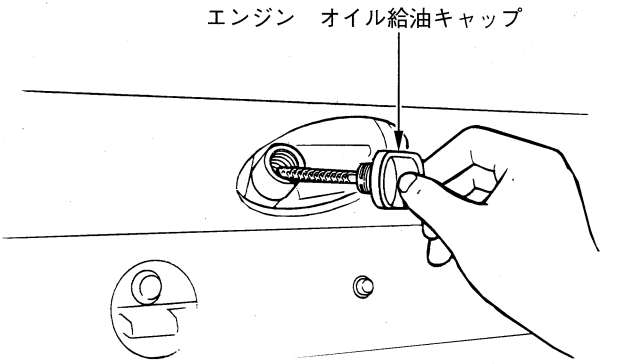
取扱いのポイント

除雪時に燃料を補給する場合は、燃料タンク内に雪が入らないように注意してください。燃料タンク内に雪が入るとエンジン不調の原因になります。

エンジン　オイルの点検

点検

エンジンを水平にしてオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。少ないときは、新しいオイルを補給します。

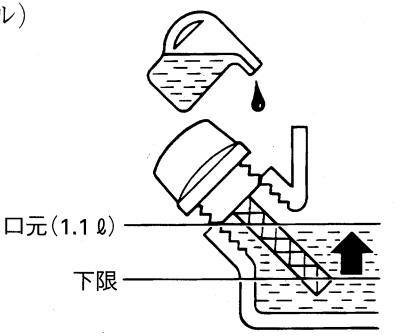


補給

指定オイル：

（4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）
Honda純正汎用寒冷地オイル
（SAE 5W-30）またはAPI分類
SE、SFまたはSG級相当のSAE
5W-30エンジン　オイル。

オイル容量：1.1ℓ



- 少ないときには新しいオイルを口元まで補給します。
- 汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は49頁参照)

取扱いのポイント

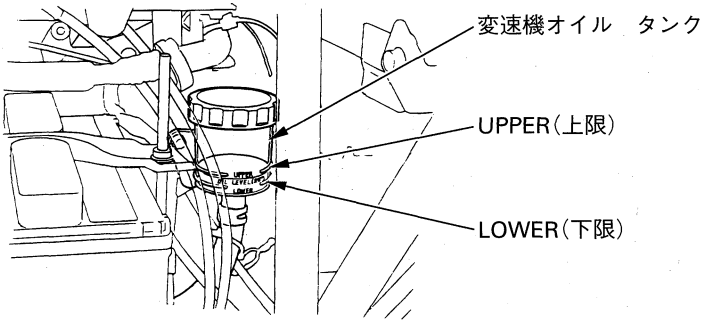
オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

変速機オイルの点検

点検

変速機オイルの点検は除雪機が冷えているときに行ってください。

リヤ　カバーを外して(HS980を除く)変速機オイル　タンクのUPPER(上限)とLOWER(下限)の間にオイルがあるか確認します。

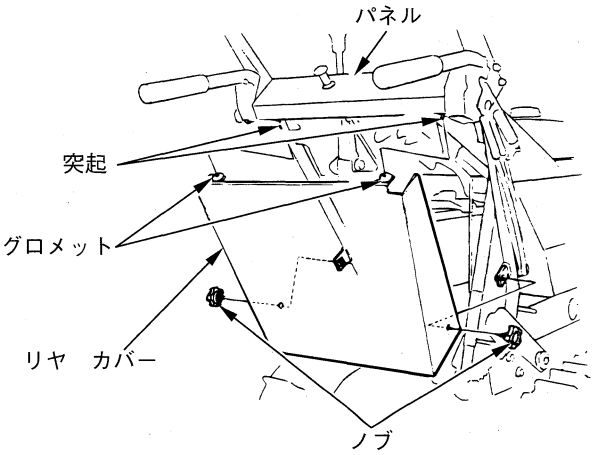


リヤ　カバーの外しかた(HS980を除く)

- 左右のノブを外しリヤ　カバーを下の方向に引いて取外します。

リヤ　カバーの取付けかた(HS980を除く)

1. パネルの突起にリヤ　カバーのグロメットを合わせリヤ　カバーを取付けます。
2. 左右のノブを取付け、確実に締付けます。

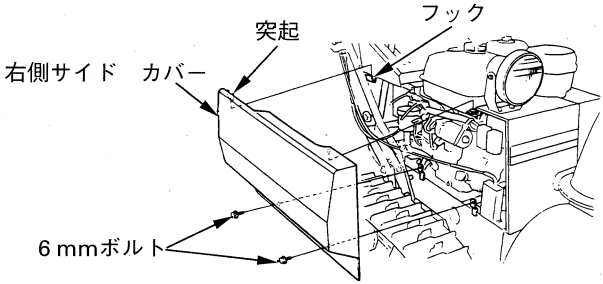


※HS1390Z/HS1180Zは一部イラストが異なります。

補給

補給はサイド　カバーを外して行います。

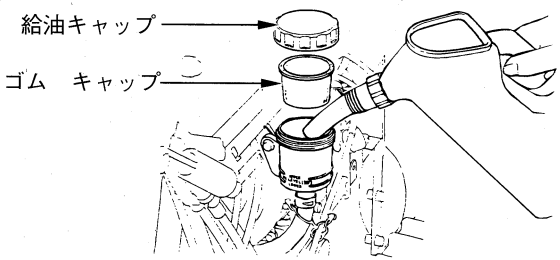
1. 右側サイド　カバーの6 mmボルト2本を同梱の10 mmスパナで外します。サイド　カバーを上に引き上げ本機より外します。



2. 給油キャップと内部のゴム　キャップを外して、新しい変速機オイルをUPPER（上限）まで補給します。
3. 補給後、確実にゴム　キャップと給油キャップを取付けます。
   指定オイル：（4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル）
   Honda純正汎用寒冷地オイル（SAE 5W-30）またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30エンジン　オイル。
4. 右側サイド　カバーを取付けます。
   - 右側サイド　カバーを取付ける時は、サイド　カバーの突起を本機側のフックに入れてください。

取扱いのポイント

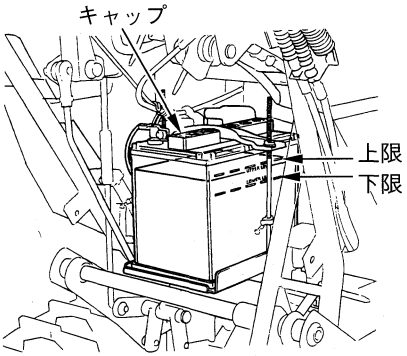
- 補給時タンクの中に、ゴミ等の異物が入らないよう十分注意してください。異物が混入すると変速機が故障する原因になります。
- 変速機オイルが著しく減少している場合は、直ちに作業を中止してお買いあげ販売店へご連絡ください。



バッテリの点検

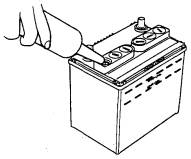
点検

HS1190/HS1390Z/HS1180Zはリヤ　カバーを開けて(25頁参照)バッテリの液面が各槽とも上限(UPPER·LEVEL)と下限(LOWER·LEVEL)の間にあるか点検してください。
同時にキャップの通気孔のつまりを点検してください。



補給

バッテリ液が少ないときはバッテリを外し、キャップを外して、バッテリ補充液(蒸留水)を上限(UPPER LEVEL)まで補給します。バッテリの取外し、取付けは55頁を参照してください。



⚠警告

- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

取扱いのポイント

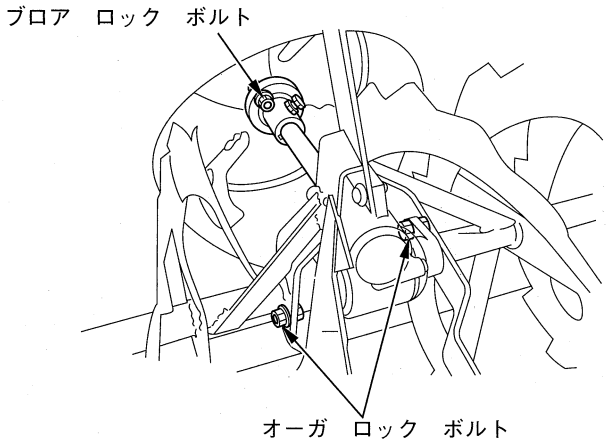
- 長時間使用しない場合には、バッテリの⊖端子を外しておいてください。
  長期間保管中は、6か月に一度補充電を行ってください。
- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER·LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

オーガ、ブロア　ロック　ボルトの点検

オーガ、ブロア　ロック　ボルトのゆるみ、折れを点検します。

ロック　ボルトは、石のかみ込みなどの異常な負荷が加わったときに、本機の損傷を防ぐために折れるしくみになっています。

もし折れている場合は53頁の手順に従って交換してください。



その他の点検

- ソリ、スクレーパの点検(33頁参照)
- 次の点検も忘れずに行ってください。

1. 各部の締付け、ゆるみ、ガタはないか
2. 各部の作動状態
3. 異常箇所……前日悪かった所はないか

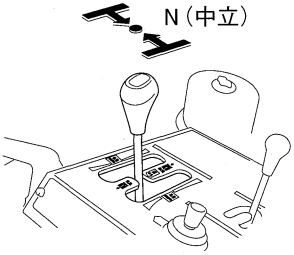
エ　ン　ジ　ン　の　か　け　か　た

⚠警告

- 屋内や換気の悪い場所では、エンジンをかけないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすおそれがあります。
- エンジンは平坦な場所で始動してください。斜面で変速レバーを“N”(中立)の位置にすると本機が空走する場合があります。

平坦路でのエンジンのかけかた

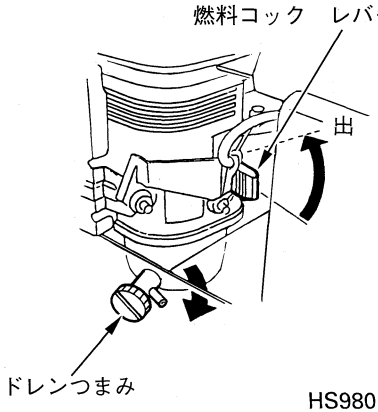
1. 変速レバーが“N”(中立)の位置にあることを確認します。



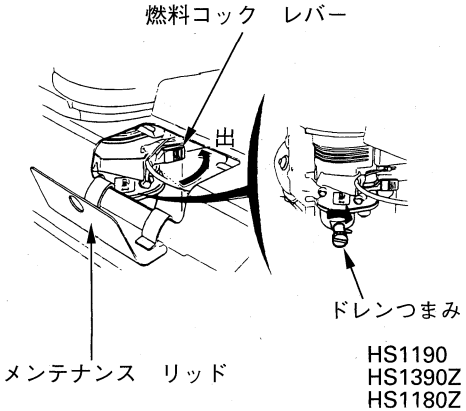
2. ドレンつまみが確実にしまっているか確認し、燃料コック　レバーを“出”の位置に合わせます。
   HS1190/HS1390Z/HS1180Zはメンテナンス　リッドを開けて、“出”の位置に合わせます。

⚠警告

ドレンつまみがゆるんでいるとガソリンが漏れる場合があり危険です。

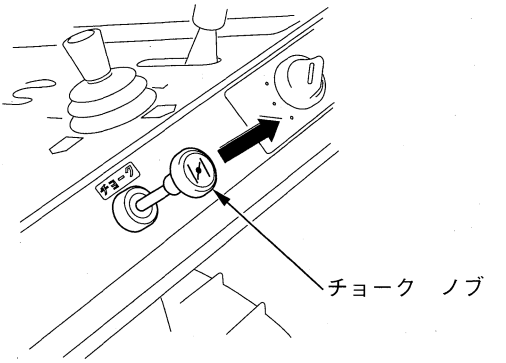


HS980

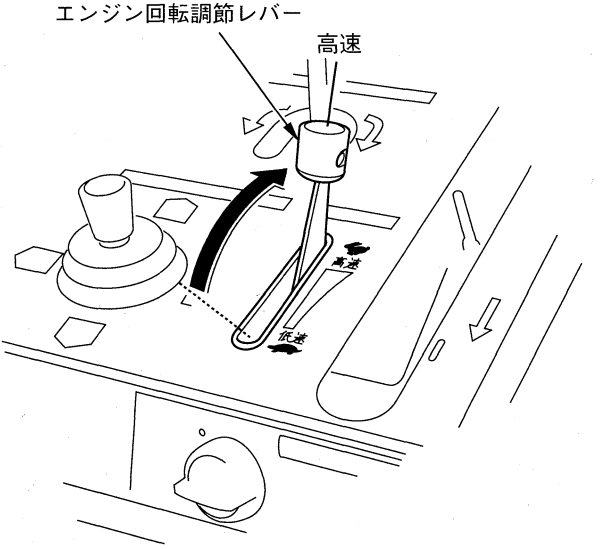


HS1190
HS1390Z
HS1180Z

3. チョーク　ノブをいっぱいに引いてください。



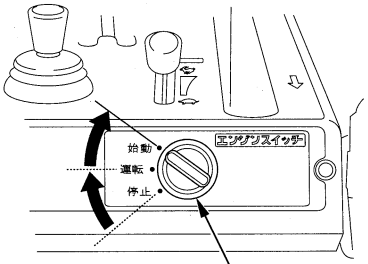
4. エンジン回転調節レバーを“高速”の位置にします。



5. エンジン　スイッチを“始動”の位置まで回し、スタータをまわします。
エンジンが始動したらスイッチから手を離してください。“運転”の位置に戻ります。

⚠注意

スタータを回す時は、除雪クラッチ　レバーおよび走行クラッチ　レバーを絶対に操作しないでください。エンジンが始動すると同時に本機が動き出し思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。

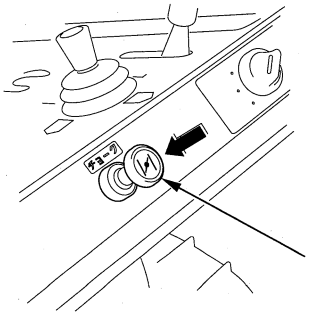


エンジン　スイッチ

取扱いのポイント

スタータを回して5秒以内でエンジンが始動しないときは、10秒ほど間をおいてから再始動してください。

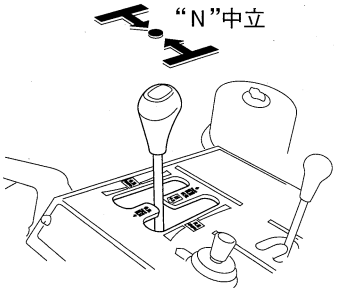
6. 始動後、エンジン回転が安定するのを確認しながらチョーク　ノブを徐々に戻し、暖機運転を行ってください。



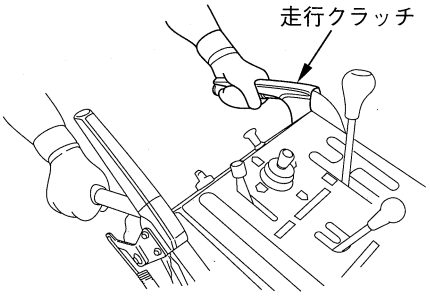
チョーク　ノブ

7. 暖機運転中に次の手順で変速機オイルを暖めてください。

−1. 変速レバーが“N”(中立)になっていることを、もう一度確認してください。

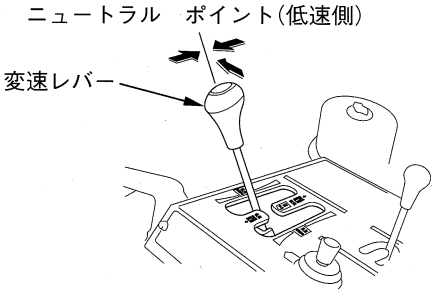


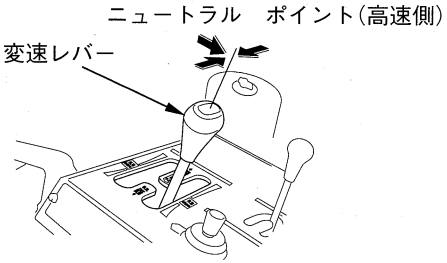
−2. 約30秒ほど走行クラッチ　レバーを握りつづけてください。



万一斜面で停止したときのエンジンのかけかた

変速レバーを低速側または高速側のニュートラル　ポイント(走行クラッチ　レバーを握っても本機が動かない位置)にしてエンジンを始動してください。変速レバーを“N”(中立)の位置にしないでください。変速レバーを“N”(中立)の位置にすると、本機が空走することがあります。





運　転　操　作　の　し　か　た

除雪をする前に必ず“安全にお使いいただくためにこれだけはぜひ守りましょう”の項目を良くお読みになり除雪作業に取掛かってください。

⚠注意

- 除雪作業をするときは、手袋、帽子、防寒服、防寒靴などの防寒用の身支度をしてください。
- 本機の操作を行う場合には本機後方中央部に立ち、必ず両手でハンドルを持ってください。

取扱いのポイント

使用中に音、におい、振動などで異常を感じたら直ちにエンジンを停止し、お買いあげ販売店にお申しつけください。

除雪作業は雪質など雪の状態に影響されます。最適な除雪作業をするため、必要に応じてソリ、スクレーパ、オーガ　ハウジング高さを調節してください。
調節は調節基準表を目安にしてください。(36頁参照)

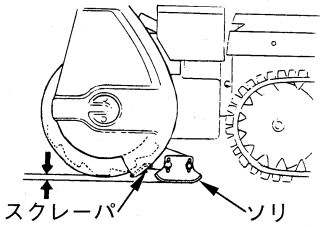
1.ソリ、スクレーパの点検、調節

⚠警告

ソリ、スクレーパを調節するときは、必ずエンジンを停止し誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを外して行ってください。

除雪する路面の雪の状態に合わせて、路面との高さを調節します。

1. 除雪部を平坦路に置き、オーガ　ハウジング調節レバーを**“標準”**の位置にします。(HS980/HS1190)
   オーガ　ハウジング調節スイッチを操作して、除雪部を水平状態のまま平坦路に接地させます。(HS1390Z/HS1180Z)
2. 本機を平坦な場所に置き、エンジンを停止し、エンジン　スイッチ　キーを抜きます。
3. 除雪する路面の状態に合わせて、ボルトをゆるめてソリとスクレーパの高さを調節します。

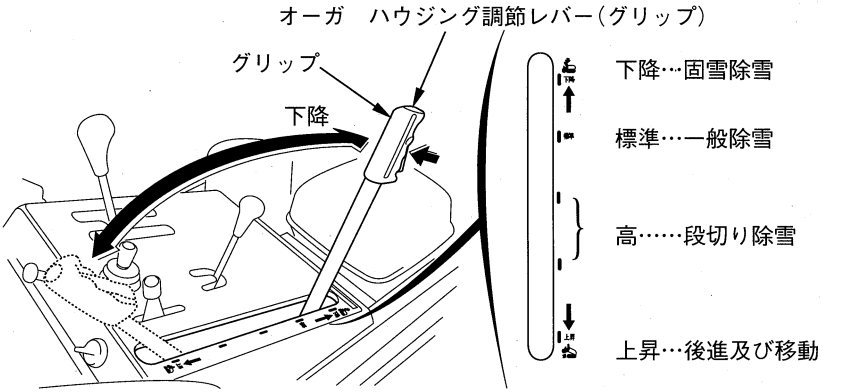


- ソリおよびスクレーパは左右同じ高さに調節してください。
- 調節後は必ずボルトを確実に締付けてください。
- 段切作業用に調節した状態で路面出し作業を行なわないでください。除雪部に悪影響をあたえます。

2.オーガ　ハウジング高さの調節

- HS1190/HS980

除雪部の高さを５段階に調節することができます。



1. 右手でオーガ　ハウジング調節レバーをしっかりささえ、グリップを握り、レバーのロックを解除します。(解除するときはオーガ　ハウジング調節レバーを前方へ少し押しながら操作すると容易に解除することができます。)
2. 除雪する高さまでオーガ　ハウジング調節レバーを動かし、グリップから手を離します。
3. オーガ　ハウジング調節レバーを前後に動かし、レバーがロックされ動かないことを確認します。

⚠警告

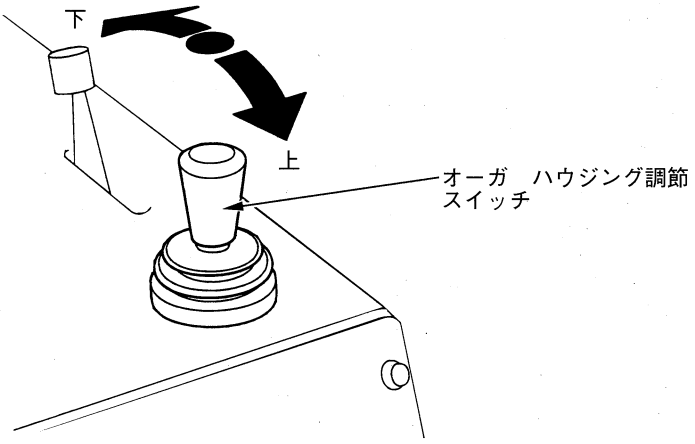
- オーガ　ハウジング高さを調節するときは、必ず本機を停止させ、除雪部の回転を停止させてから行ってください。
- オーガ　ハウジング調節レバーを操作するときは、フレームに手や足をはさまれないように注意してください。“下降”の位置からのレバー操作は、一段一段ロックをするようにしてください。レバーが本機の自重により急激に戻される場合があります。

• HS1390Z/HS1180Z

除雪部の高さを無段階に調節することができます。

路面の状態に応じて除雪部を接地させるか、さらにくい込ませるかあるいは少し浮かせるかを決め、オーガ　ハウジング調節スイッチで高さを調節します。

オーガ　ハウジング調節スイッチを“下”にすると除雪部は下がり“上”にすると上がります。スイッチから手をはなすとその位置で除雪部が停止します。



調節基準表(目安)

	※固雪除雪	一般除雪	凹凸路面除雪	仕上げ除雪	段切り(くい込み)
オーガ ソリ	「上限」位置	調節代 「中」位置	調節代「下限」 まで下げる	「中」位置	調節代 「上限」まで上げる
スクレーパ	「上限」位置	調節代 「中」位置	調節代「上限」 まで上げる	オーガ　ハウジング 調節レバー「標準」 または「下降」位置 で地面との隙間を 0−5 mmに調節	調節代 「上限」まで上げる
オーガ ハウジング 調節レバー (HS1190/ HS980)	「下降」位置	「標準」位置	「高」位置また は「標準」位置 程度	「下降」または 「標準」位置	「標準」または 「高」位置
除雪部高さ (HS1390Z/ HS1180Z)	「くい込み」 位置	「接地」位置	「少し浮き」 または「接地」 位置	「くい込み」または 「接地」位置	「接地」または 「少し浮き」位置

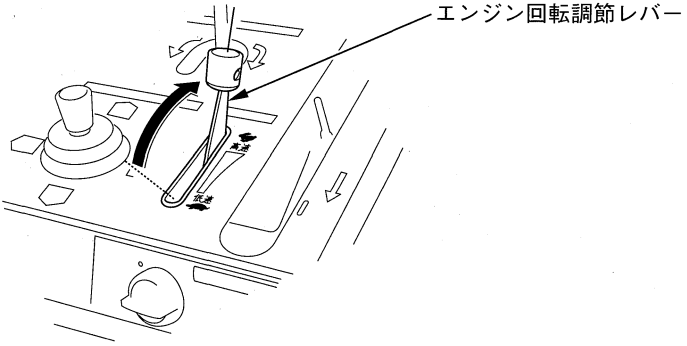
※硬い地面が出た条件での作業時では除雪部に悪影響を与えるおそれがありますので必ず雪上で使用されるようにお願い致します。

3. 始動

始動については29頁～32頁を参照してください。

4. 運転操作

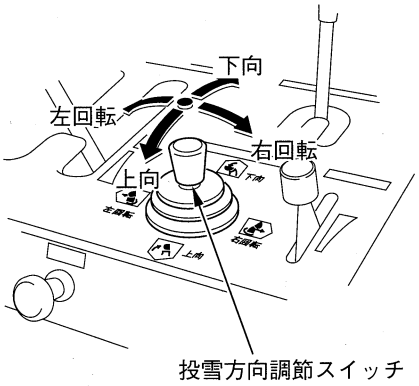
−1.変速レバーが“N”(中立)の位置にあることを確認し、エンジン回転調節レバーを“高速”にあわせます。

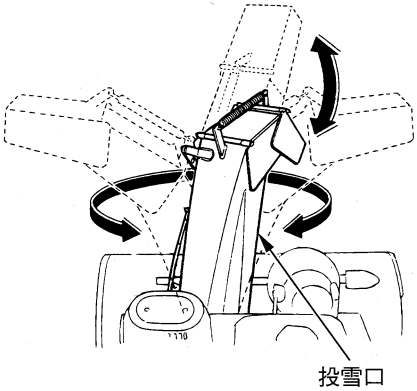


−2. 投雪方向調節スイッチで投雪距離と方向を調節します。

⚠注意

投雪距離や方向を変えるときには人や建物などに注意して行ってください。

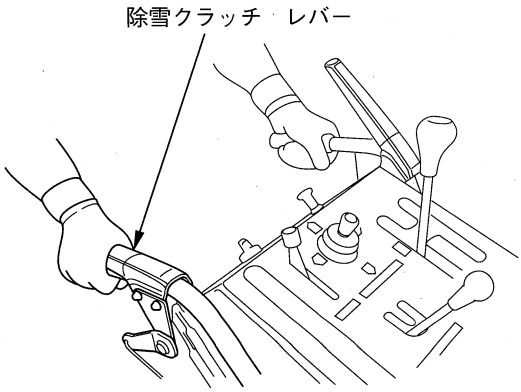




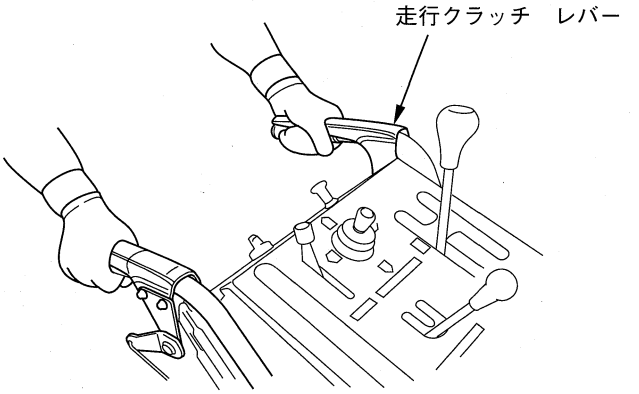
−3. 除雪クラッチ レバーを握り除雪部を回転させます。

⚠注意

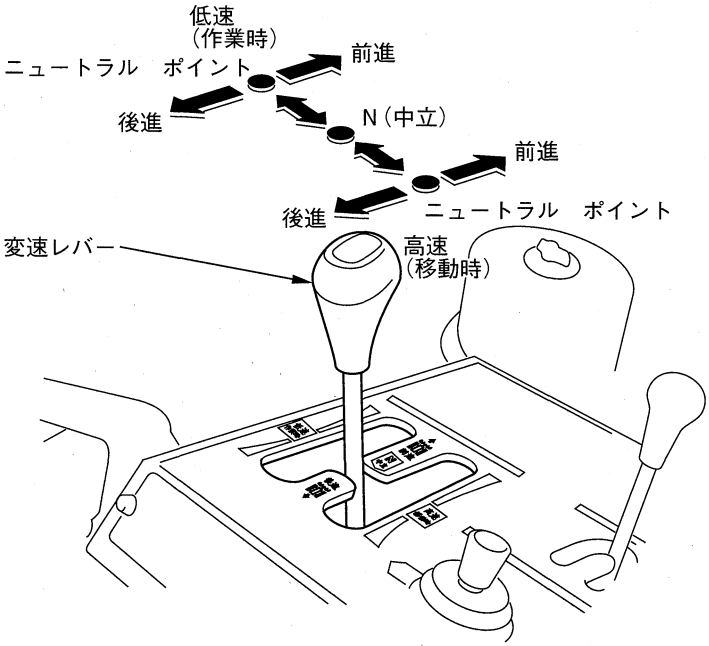
除雪クラッチ　レバーおよび走行クラッチ　レバーを握ると本機が作動します。レバーを握るときには周囲の安全を十分に確認してください。



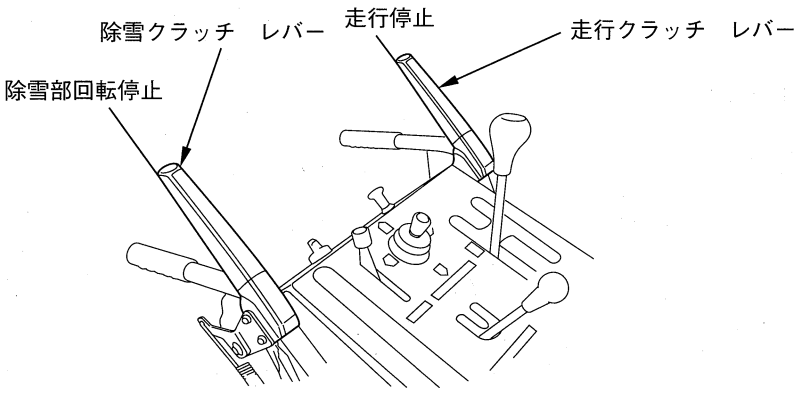
−4. 変速レバーが“N”(中立)の位置にあることを確認した後に走行クラッチ レバーを握ります。



−5. 除雪クラッチ　レバーから手を離し、雪質、積雪量に合わせて変速レバーの位置を選び車速を設定します。

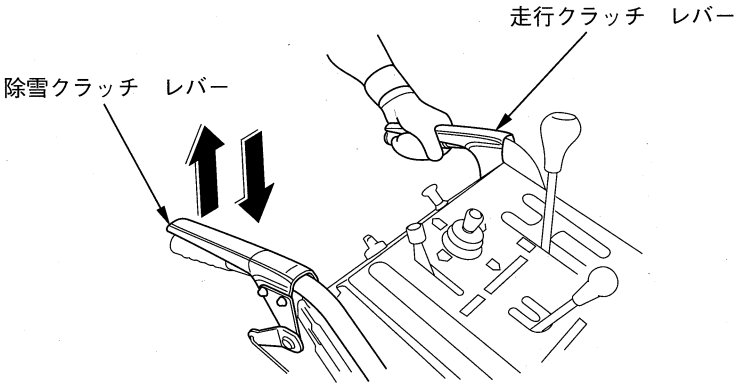


−6. 除雪クラッチ　レバーと走行クラッチ　レバーを単独で使用している場合は、それぞれのレバーから手を離すと、除雪部の回転または走行が停止します。



除雪クラッチ　レバーと走行クラッチ　レバーの連動手順

1. 除雪クラッチ　レバーを握りながら次に走行クラッチ　レバーを握ります。
2. 除雪クラッチ　レバーを離しても、除雪クラッチ　レバーが固定され、投雪と走行ができます。
   この状態から走行クラッチ　レバーを離せば、投雪と走行が停止します。



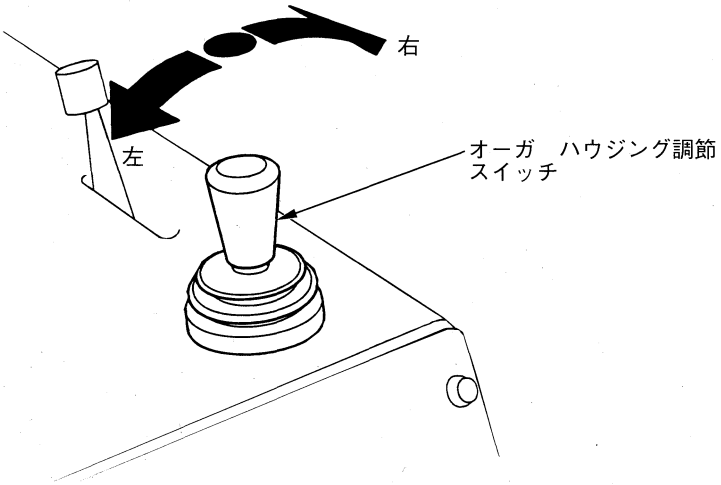
・除雪の時は、除雪クラッチ　レバーを先に操作してください。
・移動のときは、走行クラッチ　レバーのみ使用してください。

5.除雪部の傾き調節
（HS1390Z/HS1180Z:ローリング機構付きタイプ）

除雪作業中本機が傾いてきたときは、オーガ　ハウジング調節スイッチで除雪部の傾きを調節します。

本機が右側に傾いたとき ····オーガ　ハウジング調節スイッチを左側に倒します。

本機が左側に傾いたとき ····オーガ　ハウジング調節スイッチを右側に倒します。

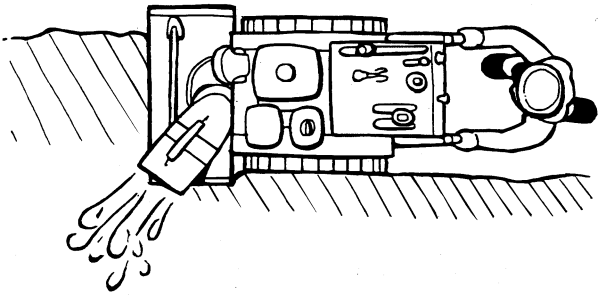


6.除雪のしかた

除雪作業はエンジンの回転を落さず行うことが重要です。そのためには雪による負荷をさけるため、変速レバーは低速(作業用)で行ってください。低速の位置にしてもエンジン回転が落ちる場合は次の要領を参考にして、除雪作業を行ってください。

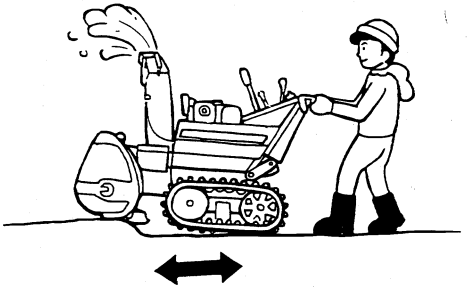
• 除雪幅を狭くする方法

深い雪や、固くなった雪の場合は低速で除雪してください。またこのような場合、除雪部に掛かる雪幅を狭くして行ってください。



• 前後進除雪の方法

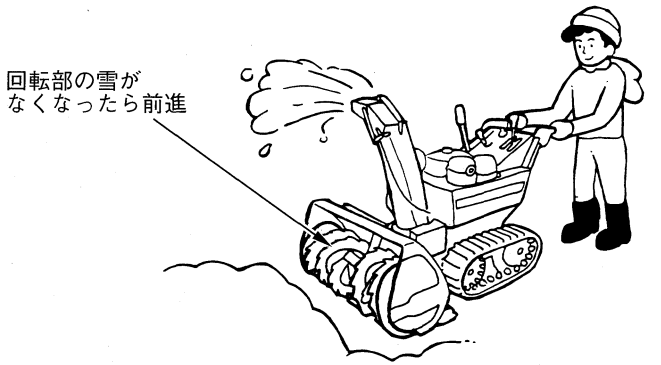
固くなった雪などで除雪部が乗り上げるような場合には、前、後進を繰り返して除雪してください。



• 断続除雪の方法

深い雪や、重い雪の除雪作業時にエンジン回転が低下する場合には、断続的に除雪を行ってください。

1. エンジン回転が回復するまで走行クラッチ　レバーから手を離します。
   （この時除雪クラッチ　レバーは握ったままにしておきます。）
2. 除雪部の雪がなくなり、エンジン回転が回復したら走行クラッチ　レバーを握ります。（車速は低速にしておきます。）
3. 再びエンジン回転が低下する場合には、（1）～（2）を繰り返して行います。

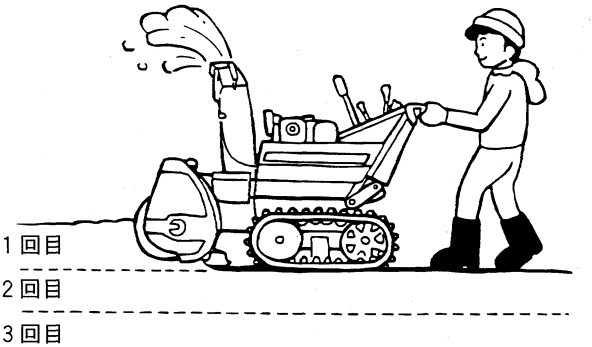


• 段切除雪の方法

積雪量が多く、除雪部よりも雪が多い場合は段階的に除雪を行ってください。

のぼるときは、

・オーガ　ハウジング調節レバー“高”に合わせます。（HS980/HS1190）
・オーガ　ハウジング調節スイッチを
  操作し除雪部を少し上げます。
  （HS1390Z/HS1180Z）

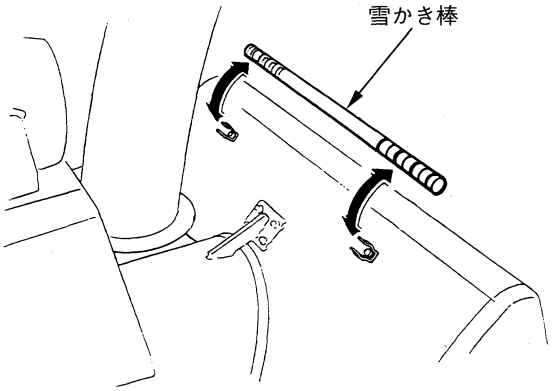


• 投雪口に詰まった雪の除去

⚠警告

除雪部および投雪口に詰まった雪を除去するときは、エンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないように点火プラグ　キャップを取外し、各回転部が完全に止まってから、必ず備え付けの雪かき棒を使って雪を取除いてください。エンジンが回っているときは絶対に手を入れないでください。大ケガをするおそれがあります。

1. 除雪作業中、投雪口に雪が詰まったときは、雪かき棒で除去します。



2. 雪かき棒は使用後、必ず元の位置にセットしてください。

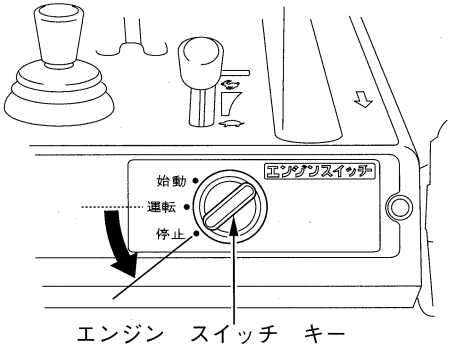
除　雪　機　の　止　め　か　た

⚠警告

平坦な場所を選んで駐車してください。傾斜地に駐車すると、本機が空走し事故の原因になります。

• 緊急にエンジンを停止する場合

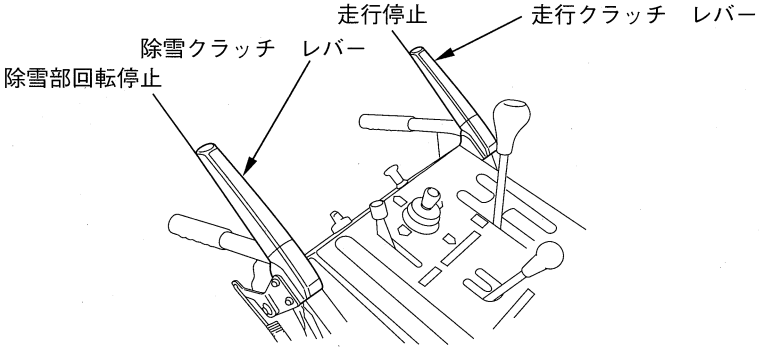
エンジン　スイッチ　キーを“停止”にして、キーを抜きます。



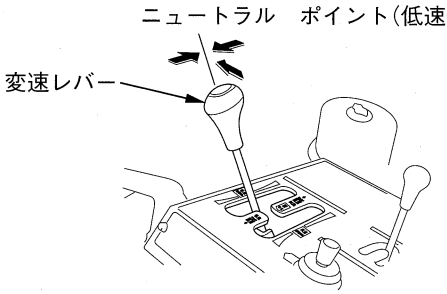
エンジン　スイッチ　キーを使って本機を緊急停止させた場合は再び始動する前に低速側または高速側のニュートラル　ポイントの位置にしてください。

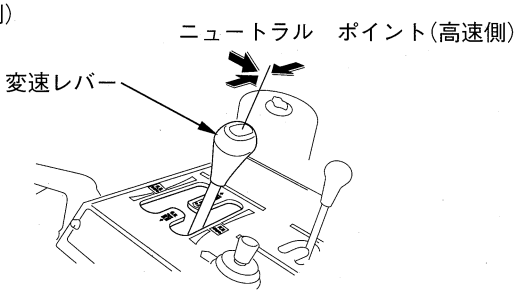
• 通常停止の場合

1. 走行クラッチ　レバー、除雪クラッチ　レバーから手を離します。
   走行が停止し、数秒後除雪部の回転が停止します。

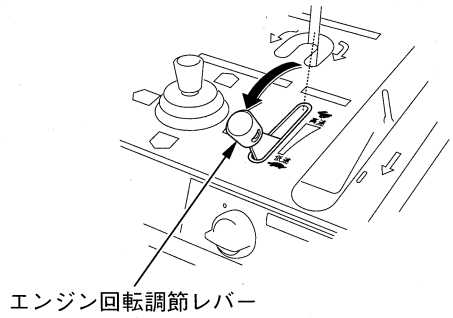


2. 変速レバーを低速側または高速側のニュートラル　ポイントの位置にします。



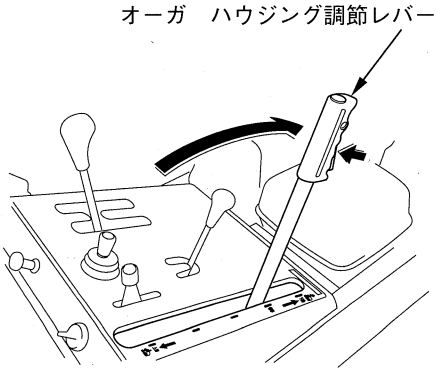


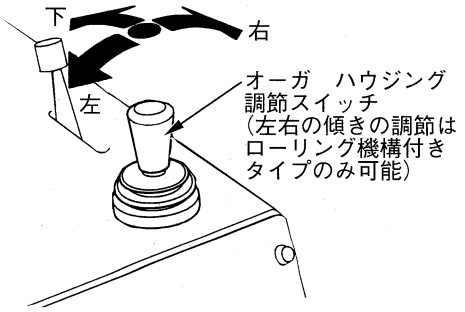
3. エンジン回転調節レバーを**“低速”**にします。



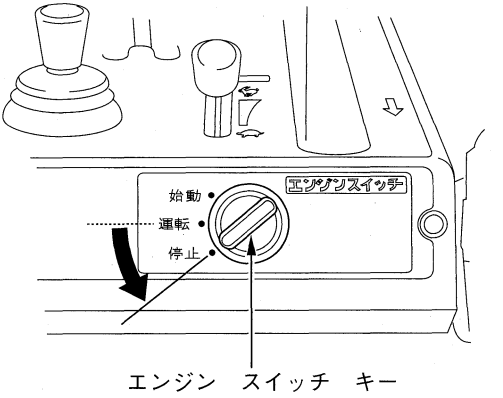
4. オーガ　ハウジング調節レバーを**“下降”**にして、オーガを完全に路面へ接地させます。(HS980/HS1190)

オーガ　ハウジング調節スイッチを操作して除雪部を完全に路面へ接地させます。(HS1390Z/HS1180Z)



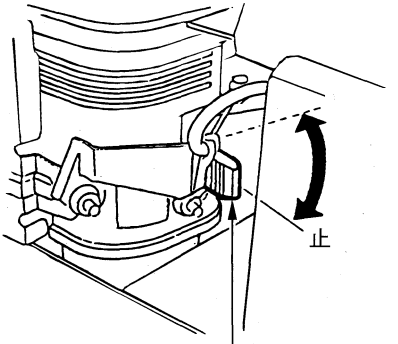


5. エンジン　スイッチ　キーを“停止”にして、キーを抜きます。

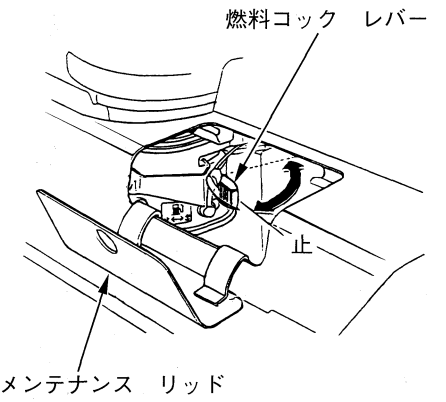


エンジン　スイッチ　キー

6. 燃料コック　レバーを“止”の位置にします。
HS1190/HS1390Z/HS1180Zはメンテナンス　リッド(点検扉)を開けて、“止”の位置にします。



HS980



HS1190
HS1390Z
HS1180Z

取扱いのポイント

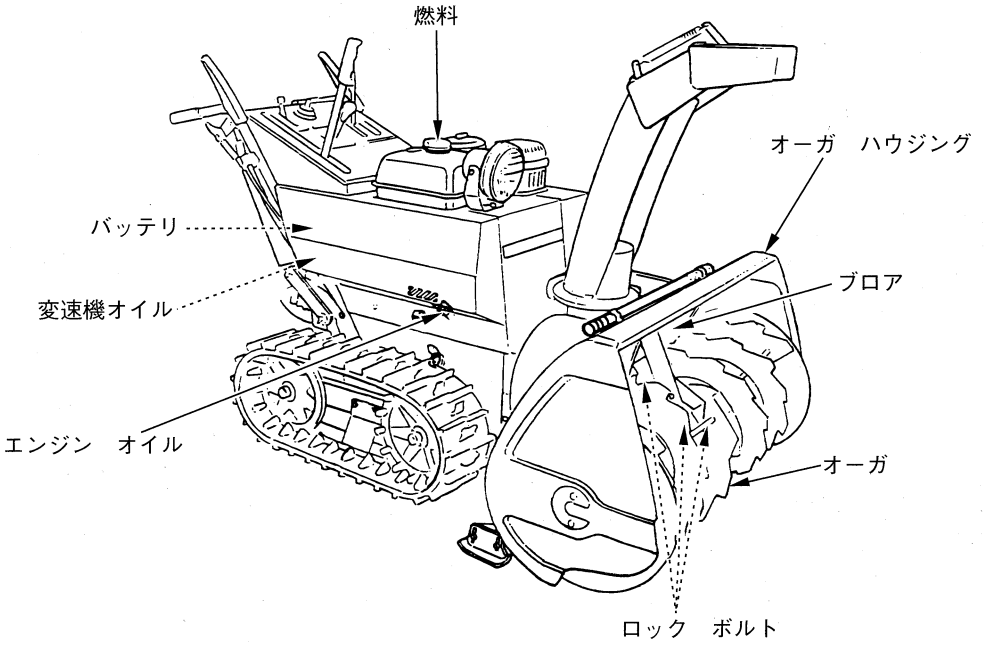
作業後は、各部の雪を取除いて格納してください。次の使用に支障があるばかりでなく故障の原因にもなります。

定期手入れを行いましょう

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに自分自身で行ってください。

- エンジン　オイル……規定量入っているか。
  漏れはないか。
- 燃料……残量
- 各部の締付け……ハンドルのがたはないか。
- バッテリ……バッテリ液の点検(27頁参照)
- ソリ……ソリの高さ調整(33頁参照)
- 投雪方向調節スイッチ、オーガ　ハウジング調節レバー……作動の確認。
- オーガ、ロック　ボルト、ブロア、オーガ　ハウジング等の損傷やゆるみについては、特に点検を行ってください。
- 異常箇所はなかったか。
- その他異常を感じたら、ただちにお買い上げ販売店へお申しつけください。



定期点検

お買いあげいただきました除雪機をいつまでも安全に調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

点検時期(1) / 点検項目		作業点検	1ケ月目又は20時間目	シーズン毎		4年毎
				除雪時期初め	除雪時期終わり	
エンジンオイル	点検、補給	○				
	交換		○	○(又は100時間毎)		
無段変速機オイル	点検、補給	○				*分解時のみ交換
バッテリ液	点検	○				
	比重点検			○(2)		
ミッション　オイル	交換	2年毎(2)				
オーガミッションオイル	交換	2年毎(2)				
スパークプラグ	点検、調整			○		
	交換					○(250時間毎)
ソリ、スクレーパ	点検、調整	○		○		
クローラ	点検、調整			○		
オーガ、ブロア ロックボルト	点検	○				
各部締め付け点検	点検	○				
燃料ろ過カップ	清掃				○	
タンク、キャブレータの燃料	抜き				○	
格納時各部防錆、給油	塗布、給油				○	
シュータガイドコントローラ	点検、調整			○(2)		
走行／オーガクラッチケーブル	点検、調整			○(2)		
スロットルケーブル	点検、調整			○(2)		
チョーク／サイドクラッチケーブル	点検、調整			○(2)		
走行／オーガベルト	点検、調整			○(2)		
アイドル回転	点検、調整			○(2)		
吸入、排気弁すき間	点検、調整			○(2)		
燃焼室	清掃	250時間後毎				
燃料タンク、ろ過網	清掃					○(2)
燃料チューブ	点検	2年毎(2)				
	交換					○(2)

(1)点検時期は表示の期間毎または運転時間毎のどちらか早い方で実施してください。

(2)適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店にお申しつけください。

やさしい点検・整備

⚠警告

点検・整備は平坦な場所で必ずエンジンを停止し、誤ってエンジンが始動しないようにエンジン　スイッチ　キーを外し、点火プラグ　キャップを取外して行ってください。

エンジン　オイルの交換

(初回：20時間使用時にも交換してください。)

エンジン　オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

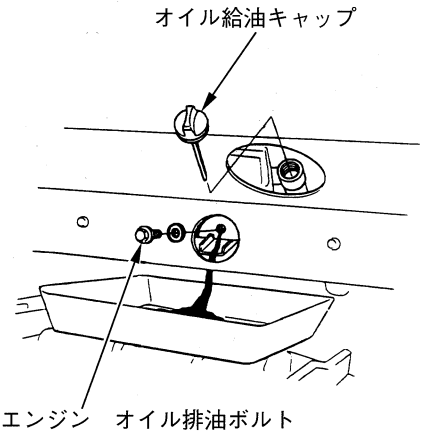
初回：20時間目、以後：年一回除雪時期の初め、または100時間運転時

《推奨オイル》

(4サイクル　ガソリン　エンジン　オイル)

Honda純正汎用寒冷地オイル(SAE 5W-30)またはAPI分類SE、SFまたはSG級相当のSAE 5W-30エンジン　オイル。

《規定量》1.1 ℓ

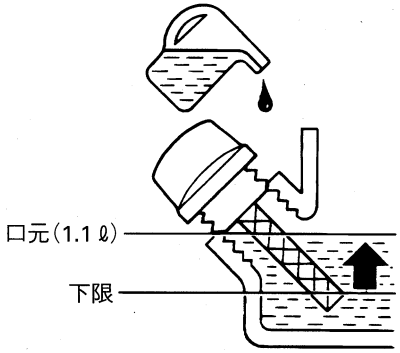


⚠警告

エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分冷えてからオイル交換を行ってください。やけどをするおそれがあります。

《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルをぬきます。
2. オイルがぬけたら排油ボルトを確実に締付けます。
3. 新しいエンジン　オイルを口元まで注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップを確実に締付けます。



取扱いのポイント

- 交換後のエンジン　オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けらています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。
- オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。
- オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルがにじみでることがあります。

点火プラグの点検、調整

⚠注意

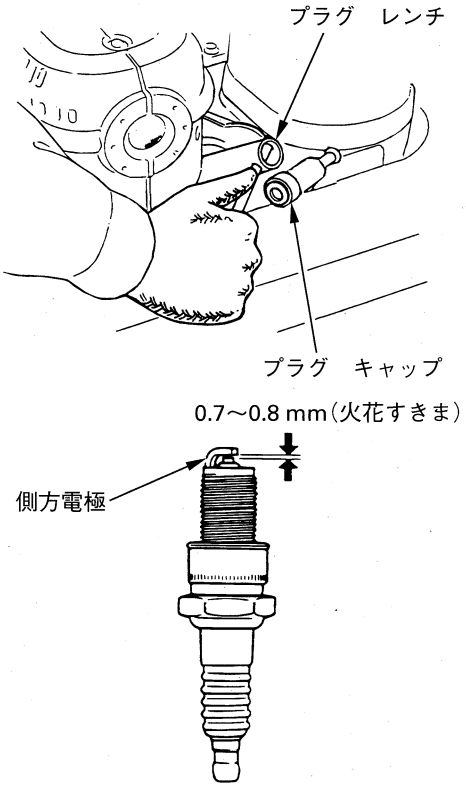
エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。やけどをしないよう作業はエンジンが冷えてから行ってください。

電極が汚れたり、電極のすき間が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

《点検・調整時期》
年一回除雪時期の初め
《交換時期》
250時間使用毎
清掃のしかた

1. 点火プラグ　キャップを取外してください。
2. プラグ　レンチ(同梱工具)で点火プラグを取外します。
3. 点火プラグの清掃はプラグ　クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店をご利用ください。プラグ　クリーナが無いときは、針金かワイヤ　ブラシで汚れを落としてください。

《調整》
調整のしかた
側方電極を曲げて火花すき間を0.7～0.8 mmに調整します。
《指定プラグ》
BP5ES (NGK)
W16EP-U (DENSO)



取扱いのポイント

- 故障の原因となるので指定以外の点火プラグを使用しないでください。
  点火プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ　レンチで確実に締付けてください。
- 点検調整後は点火プラグ　キャップを確実に取付てください。確実に取付けないとエンジン不調の原因になります。

クローラ張り調整

クローラの張りが正常でないと脱輪したり、寿命を著しく縮める原因になります。

《点検時期》

年1回除雪時期の初め

点検のしかた

クローラ中央部を強く〈約 98 N(10 kgf)〉押したときたるみが下記寸法になっているか点検します。

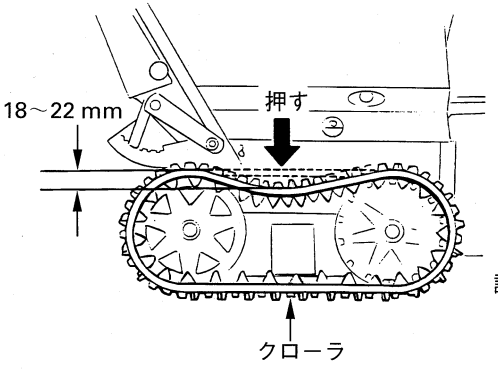
適正寸法：18－22 mm

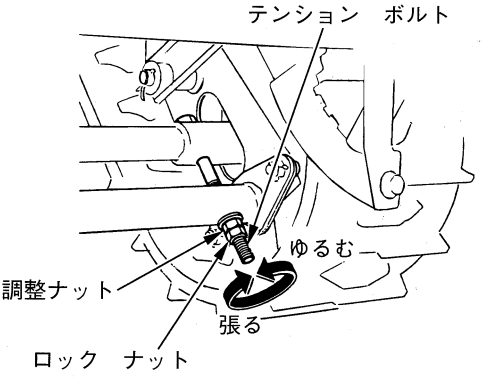
調整のしかた

1. テンション　ボルトのロック　ナットをゆるめて、調整ナットを回して調整してください。
   右に回わすとクローラは張ります。
   左に回わすとクローラはゆるみます。
2. たるみが規定量になるように調整してください。
3. 調整後確実にナットを締付けてください。
4. 左右同じ方法で点検、調整してください。

取扱いのポイント

クローラが凍結しているときは正しい張り調整ができません。
必ず凍結を取り除いてから調整してください。





除雪部の点検

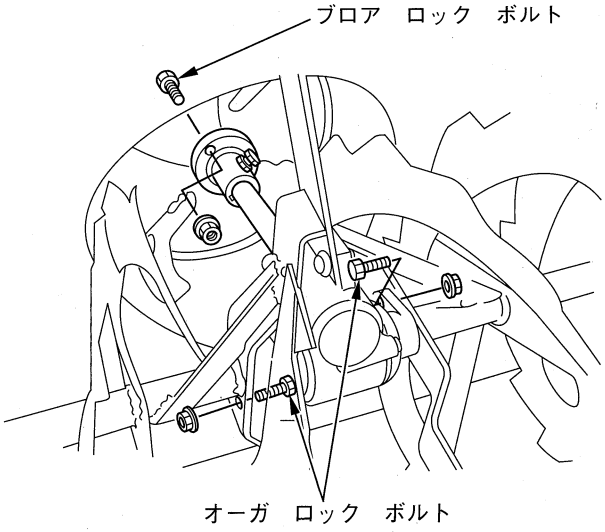
オーガ、ロック　ボルト、オーガ　ハウジング、ブロアに損傷のないことを点検します。

オーガ、ブロアのロック　ボルトのゆるみ、折れを点検します。

もし折れている場合は下記の手順で同梱されているロック　ボルトと交換してください。

ロック　ボルトの交換方法

1. 本機を平坦な場所に水平に止めてください。
2. 除雪クラッチ　レバー**"止"**、走行クラッチ　レバー**"止"**にしてください。
3. 変速レバーを**"N"**(**中立**)にしてください。
4. エンジン　スイッチ　キーを**"停止"**にして、キーを抜き、点火プラグ　キャップを外して各回転部が停止していることを確認してください。
5. オーガ、ブロアの凍結または異物(石、棒、針金など)を取除きます。
6. 除雪部を点検してください。
7. 折れたロック　ボルトを取除き、新しいロック　ボルトと交換し、確実に締付けてください。



☆新しいロック ボルト、ナットはお買いあげ販売店にご注文ください。

バッテリ

《端子の手入れ》

端子のゆるみ、腐食は接触不良の原因となります。ゆるんでいるときは締めつけてください。端子に白い粉がついているときは、バッテリを取外しぬるま湯で清掃してください。端子部が腐食している場合は、ワイヤ　ブラシかサンド　ペーパでみがきます。清掃がおわったら、端子接続後グリースを塗布してください。

⚠警告

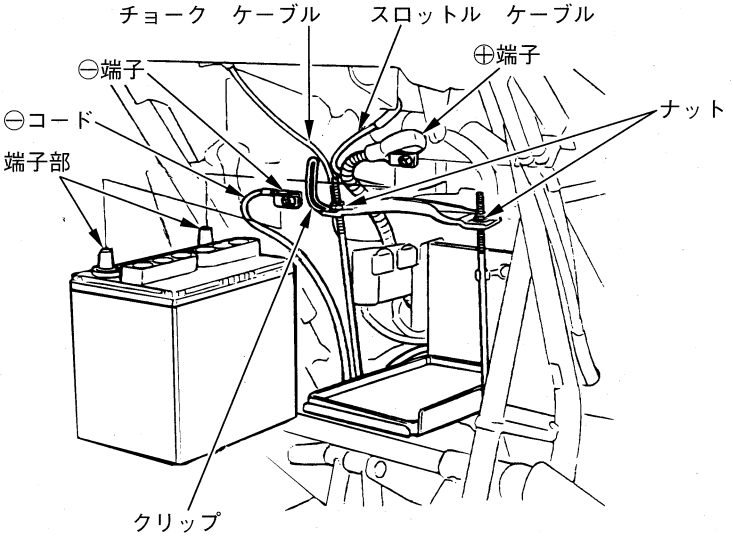
- バッテリを取扱うときはショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
- バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電はしないでください。バッテリ液面が下限以下のままで使用または充電をするとバッテリの劣化を早めたり、破裂(爆発)の原因となるおそれがあります。破裂(爆発)の場合は、重大な傷害に至る可能性があります。
- バッテリの結線は正確に行ってください。接続時は⊕側から接続し、外すときは⊖から外してください。工具の接触などでショートする場合があります。
- バッテリ液は希硫酸です。目や皮膚につくとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着したときはすぐに多量の水で少なくとも15分以上洗浄し、専門医の診断を直ちに受けてください。

取扱いのポイント

- 長時間使用しない場合には、バッテリの⊖端子を外しておいてください。
  長期間保管中は、6か月に一度補充電を行ってください。
- バッテリ補充液(蒸留水)を入れすぎると電解液がこぼれ金属を腐食させる原因となります。上限(UPPER·LEVEL)以上入れないでください。万一バッテリ液をこぼしたときには、必ず水洗いをしてください。

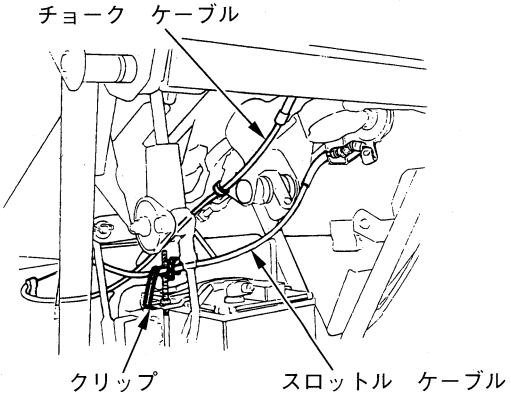
バッテリの取外し・取付け

1. バッテリ㊀端子の接続を外します。
2. バッテリ㊉端子の接続を外します。
3. クリップを外し、チョーク　ケーブルとスロットル　ケーブルを外します。
4. ナットをゆるめて、バッテリを引き出します。



5. 逆の手順で取付けます。

・クリップは下の図のように取付けてください。



ヒューズについて

ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れるおそれがあります。

HS1390Z/HS1180Z: 20 A, 20 A, 55 A（モータ　ヒューズ）

HS1190/HS980 ：　20 A, 5 A

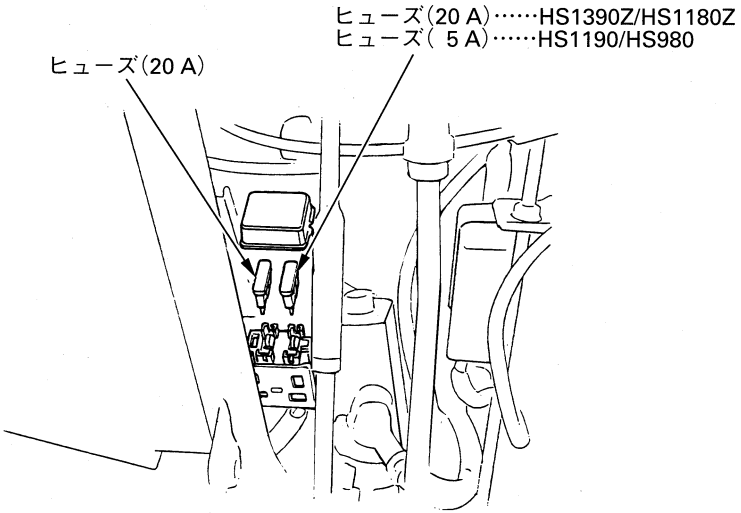
取扱いのポイント

指定ヒューズ以外の物、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線などを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

《交換のしかた》

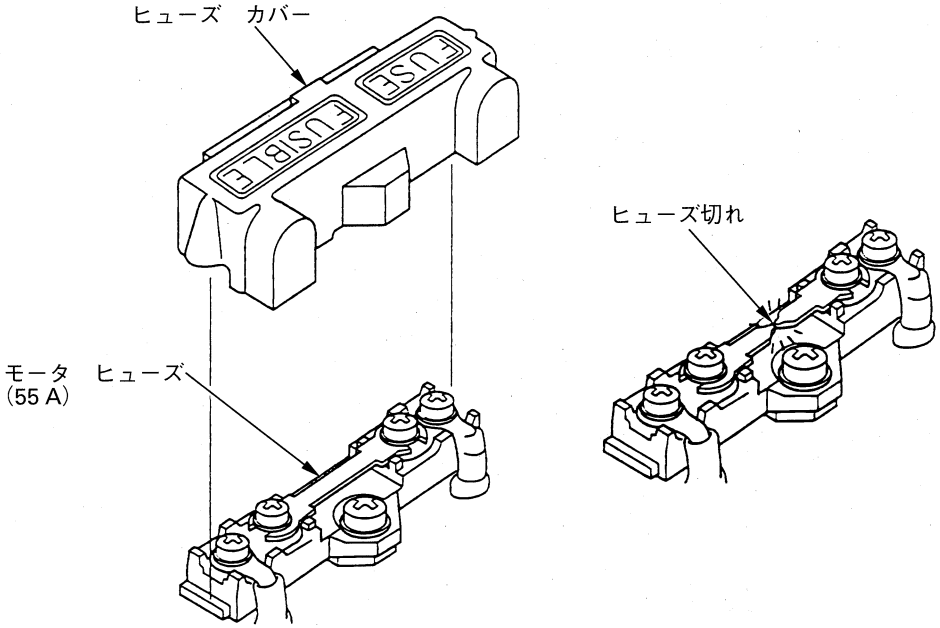
1. HS1190/HS1390Z/HS1180Zは、リヤ　カバーを開けてください。(25頁参照)
2. 切れたヒューズを新品のヒューズと交換してください。

☆指定ヒューズは、お買いあげ販売店にご注文ください。



《モータ　ヒューズの点検のしかた》(HS1390Z/HS1180Zのみ)

1. ヒューズ　ボックスを開けてください。
2. ヒューズが切れていないか点検してください。切れている場合は、お買いあげ販売店で、点検・修理を受けてください。



投雪口が作動しないときは

ヒューズに異常がないか確認してください。

ヒューズに異常がない場合は、お買いあげ販売店で、点検・修理を受けてください。

各部の作動点検

年一回除雪時期の初めに、次の点検を行ってください。

- ・エンジンの始動、停止
- ・レバー類の作動
- ・スイッチ類の作動
- ・その他の可動部分の作動

運　搬　す　る　と　き　は

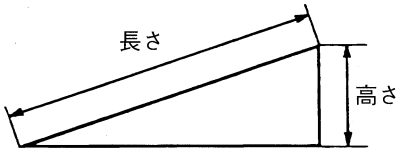
アユミ板を使ってトラックへの積み降ろし

⚠警告

車への積み降ろしをする場合は、必ずアユミ板を使用しゆっくり行ってください。転倒落下によりケガをするおそれがあります。

《積み降ろしをする前に》

1. 積み降ろしは平坦な場所で行ってください。
2. 使用するアユミ板は本機の重量＋作業者の体重に耐えられる物を使用してください。
   本機の総重量：約250 kg
3. 下の表を目安に傾斜角度が15度以下になるようなアユミ板を選んでください。



アユミ板の長さ	2.5 m	3.0 m	3.5 m
地面からアユミ板までの高さ	50 cm	60 cm	70 cm

4. 幌または、キャブ付のトラックでは、あらかじめ高さを確認してください。
5. 燃料が十分あるか確認してください。"空"に近いとエンストしてしまうことがあります。

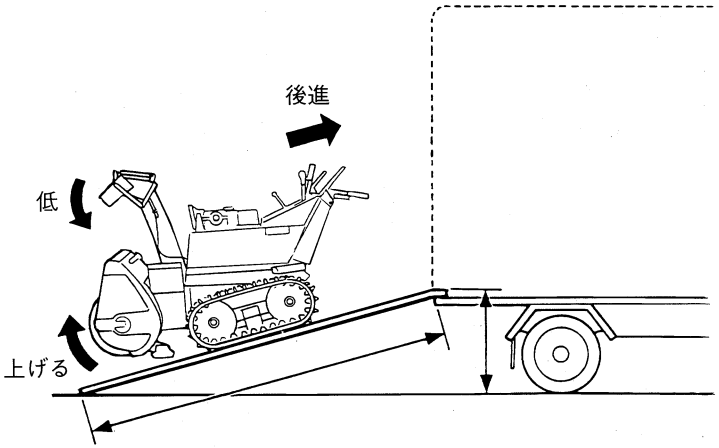
《手順》

1. アユミ板の幅をクローラの幅に合わせます。
2. エンジンを始動し、オーガ　ハウジング調節レバーで、オーガを最上位置まで上げます。
3. 投雪方向調節スイッチで投雪口を下までいっぱいに下げます。

4. 変速レバーを低速(作業用)、後進に入れ十分に車速を落として、後進でアユミ板を登ります。
5. 除雪部が幌などに当たらないように注意しながら本機をトラックの荷台に乗せてください。

⚠警告

- アユミ板の上を移動途中に、サイド　クラッチ　レバーによる操作を絶対に行わないでください。アユミ板から本機が落ちる場合があります。
- アユミ板の上を移動途中での停止は極力さけてください。万一停止した場合は変速レバーを低速側のニュートラル　ポイント(走行クラッチ　レバーを握っても本機が動かない位置)にして再始動してください。(32頁参照)
  変速レバーは"N"(中立)の位置にしないでください。本機が空走することがあります。



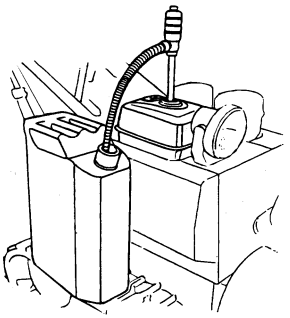
長期間使用しないときの手入れ

降雪シーズンも終わり長期保管するときは、次のシーズンも快適にお使いいただくために次のことを必ずお守りください。

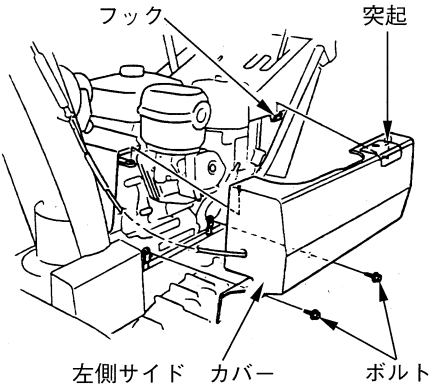
1. 保管するときは、エンジン　スイッチ　キーを外してください。
2. 燃料タンク、キャブレータ(気化器)の燃料を抜きます。

《抜きかた》

−1. 燃料タンク内のガソリンを抜きます。

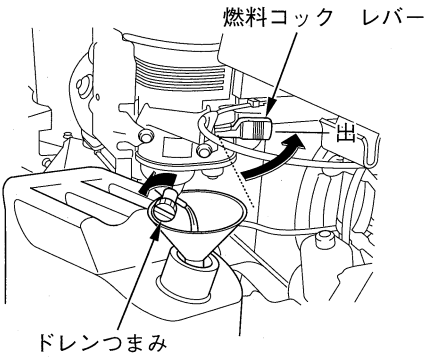


−2. 左側サイド　カバーのボルト２本を外します。
左側サイド　カバーを引き上げて外し、クローラの上に置きます。



−3. 燃料コック　レバーを“出”に合わせます。

−4. キャブレータ(気化器)のドレンつまみを回してガソリンを容器に受けます。

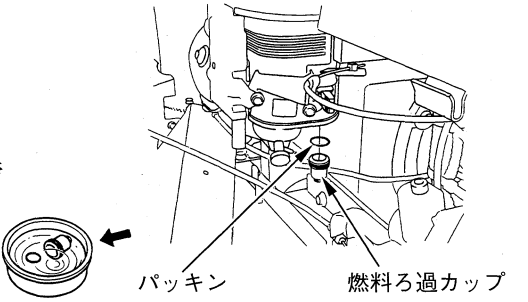


−5. 完全にぬけたらドレンつまみを確実に締めます。
−6. 燃料コック　レバーを“止”にします。
−7. 左側サイド　カバーを取付けます。
・左側サイド　カバーを取付けるときは、サイド　カバーの突起を本機側のフックに入れてください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
・火気を近づけないでください。
・換気の良い場所で行ってください。
・ガソリンはこぼさないようにしてください。万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取ってください。ガソリンをふき取った布きれなどは、火災と環境に十分に注意して処分してください。

3. 燃料ろ過カップの清掃
−1. 左側サイド　カバーを外します。
−2. カップを外し洗油で洗浄します。
−3. パッキン、カップを取付け確実に締めつけます。
−4. 左側サイド　カバーを取付けます。



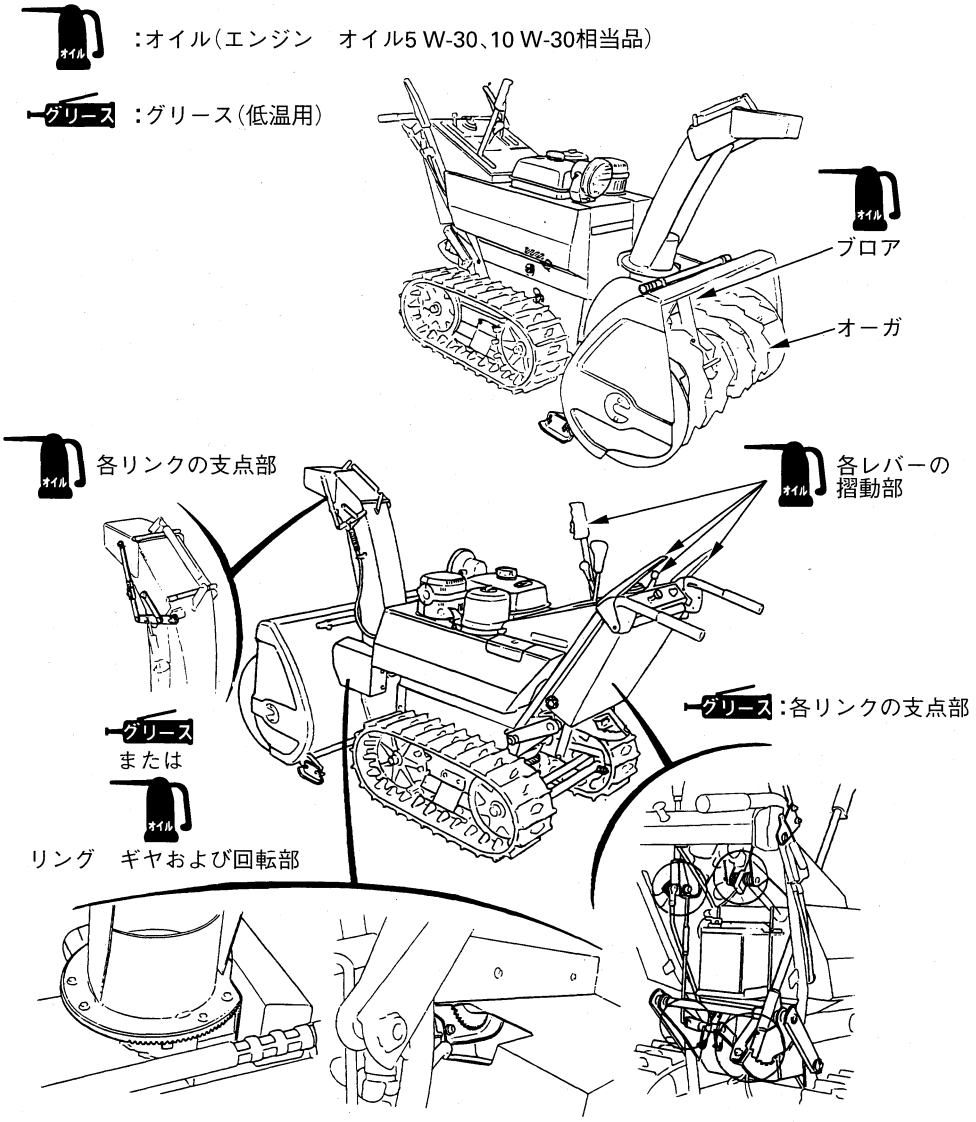
⚠警告

作業は風通しの良い場所で行い、燃料の付近でタバコを吸ったり炎など火気を近づけないでください。

4. バッテリの手入れ
保管時は、バッテリの㊀端子を外しておいてください(54頁参照)。
長期間使用しない場合、または作業を終わり長期間格納する場合は放電しますので6ヵ月に一度および除雪時期の初めと、終わりにバッテリを外して補充電を行ってください。
充電器は12V用をご使用ください。
充電時間：**1.3Aで約10時間(標準)**

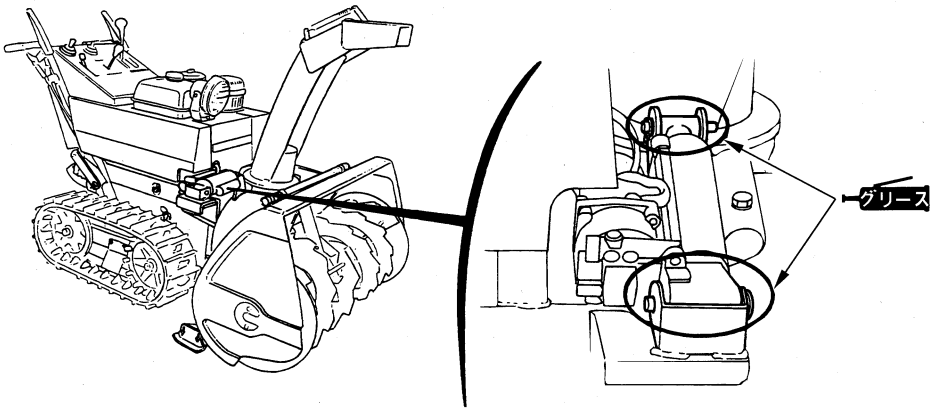
5. 保管時の給油箇所

水気、汚れを拭きとり、乾燥後回転部、摺動部にオイルまたはグリースを注油してください。

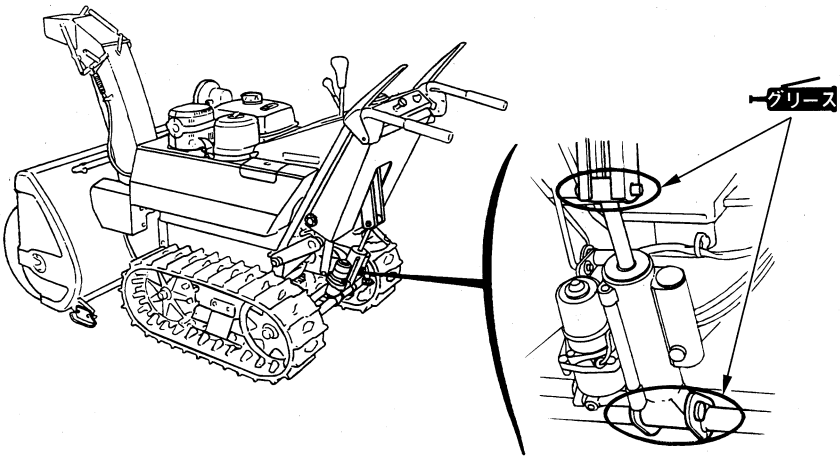


HS1190/HS980

HS1390Z/HS1180Z（ローリング機構付きタイプのみ）



HS1390Z/HS1180Z



故　障　の　と　き　は

まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店へお申しつけください。

始動しないときは、次の点を確かめましょう。
1. 始動方法は、取扱説明書どおりですか?
2. ガソリンはありますか?
3. エンジン　オイルは規定量ありますか?
4. 点火プラグ　キャップは確実に取付けられていますか?
5. 点火プラグは汚れていませんか、または火花は出ていますか?

• プラグの火花確認手順
～1. 点火プラグから点火プラグ　キャップを取外します。
～2. 点火プラグをエンジンから取外し、点火プラグ　キャップに取付けます。
～3. 点火プラグ穴から離れた場所で、点火プラグのネジ部をエンジン本体に確実にアースさせます。(感電を避けるため点火プラグ　キャップ以外には触れないでください。)
～4. エンジン　スイッチを**"始動"**の位置にして始動グリップを引き、そのとき点火プラグの電極に火花が出るか確認してください。

⚠警告

ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすおそれがあります。
・換気の良い場所で行ってください。
・火気を近づけないでください。
・燃料がこぼれた場合は、点火プラグの火花確認やエンジンを始動する前にふき取り良く乾かしてから行ってください。
・ガソリンに引火するおそれがあるのでプラグ穴の近くで火花確認をしないでください。またプラグ穴に手や顔を近づけないでください。

・火花が出ないときは、新しい点火プラグと交換するか、お買いあげ販売店にお申しつけください。

主　要　諸　元

名　称	HS1190	HS980
型　式	SZAH	SZAR

エンジン

名　称	GX340	GX270
最高出力	8.1 kW (11.0 PS)/ 3,600 rpm	6.6 kW (9.0 PS)/ 3,600 rpm
排気量	337 cm^3	270 cm^3
内径×行程	82 × 64 mm	77 × 58 mm
始動方式	セルフ　スタータ	
点火方式	トランジスタ　マグネト点火	
オイル容量	1.1 ℓ	
燃料タンク容量	6.5 ℓ	6.0 ℓ
点火プラグ	BP5ES (NGK), W16EP-U (DENSO)	

フレーム

全長	1,710 mm	
全幅	920 mm	800 mm
全高	1,340 mm	
乾燥重量	207 kg	193 kg
除雪幅	920 mm	800 mm
除雪高	580 mm	
投雪距離	最大18 m(雪質および投雪方向により異なります。)	

注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

名　　称	HS1390Z	HS1180Z
型　　式	SZAV	SZAW

エンジン

名　　称	GX390	GX340
最　高　出　力	9.6 kW (13.0 PS)/ 3,600 rpm	8.1 kW (11.0 PS)/ 3,600 rpm
排　　気　　量	389 cm^3	337 cm^3
内　径　×　行　程	88 × 64 mm	82 × 64 mm
始　動　方　式	セルフ　スタータ	
点　火　方　式	トランジスタ　マグネト点火	
オ　イ　ル　容　量	1.1 ℓ	
燃料タンク容量	6.5 ℓ	
点　火　プ　ラ　グ	BP5ES (NGK), W16EP-U (DENSO)	

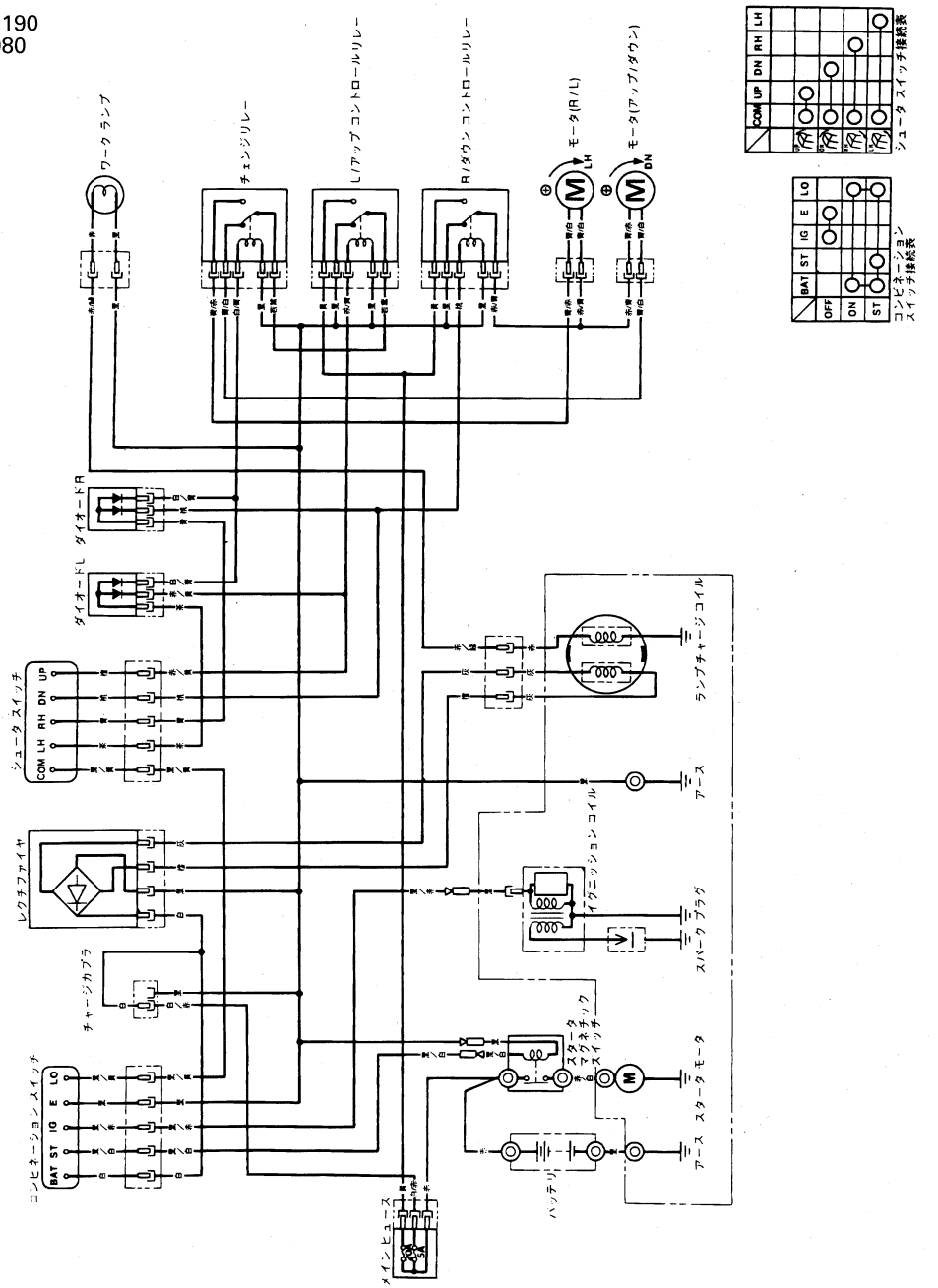
フレーム

全　　長	1,710 mm	
全　　幅	920 mm	800 mm
全　　高	1,340 mm	
乾　燥　重　量 (ローリング機構無しタイプ)	227 kg (220 kg)	222 kg (215 kg)
除　　雪　　幅	920 mm	800 mm
除　　雪　　高	580 mm	
投　雪　距　離	最大18 m(雪質および投雪方向により異なります。)	

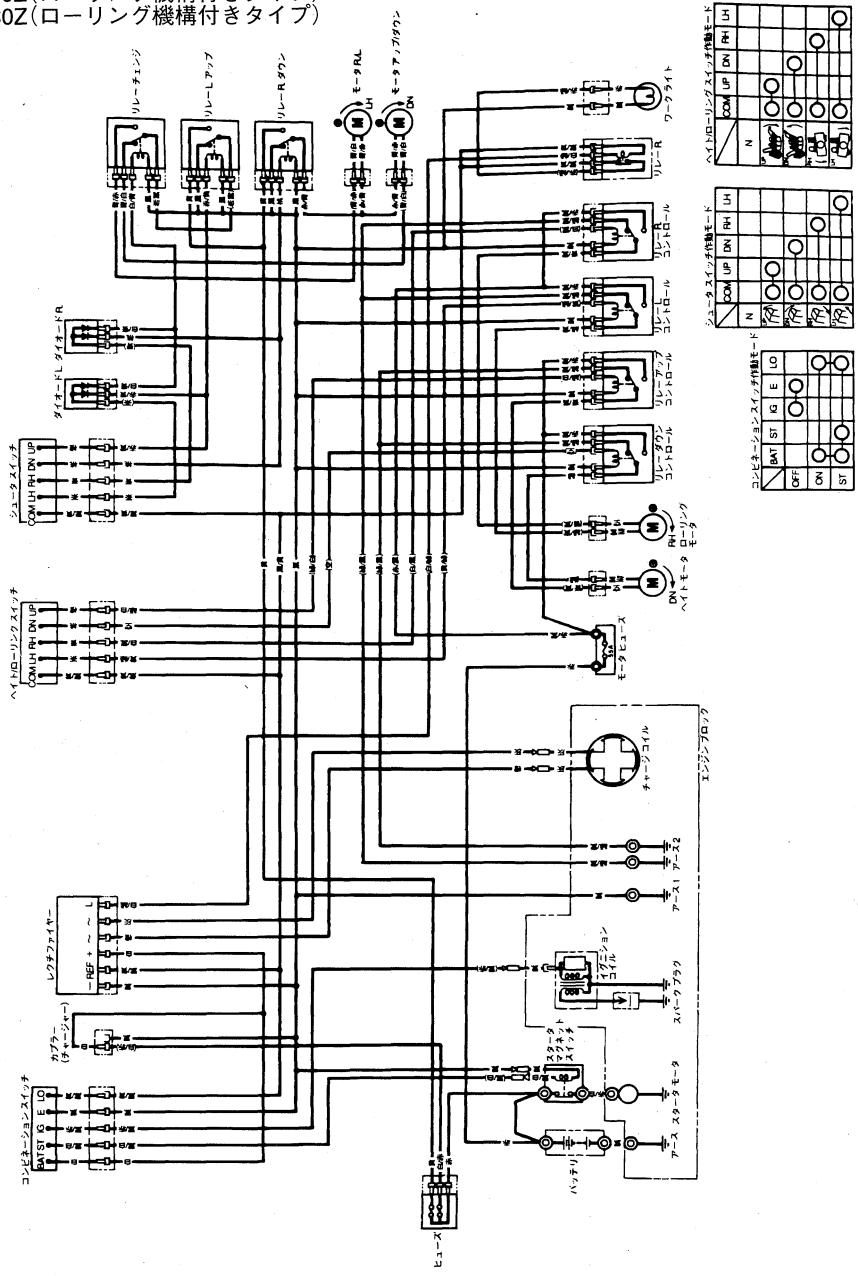
注意：諸元は改良のため予告なく変更することがあります。ご了承ください。

配　線　図

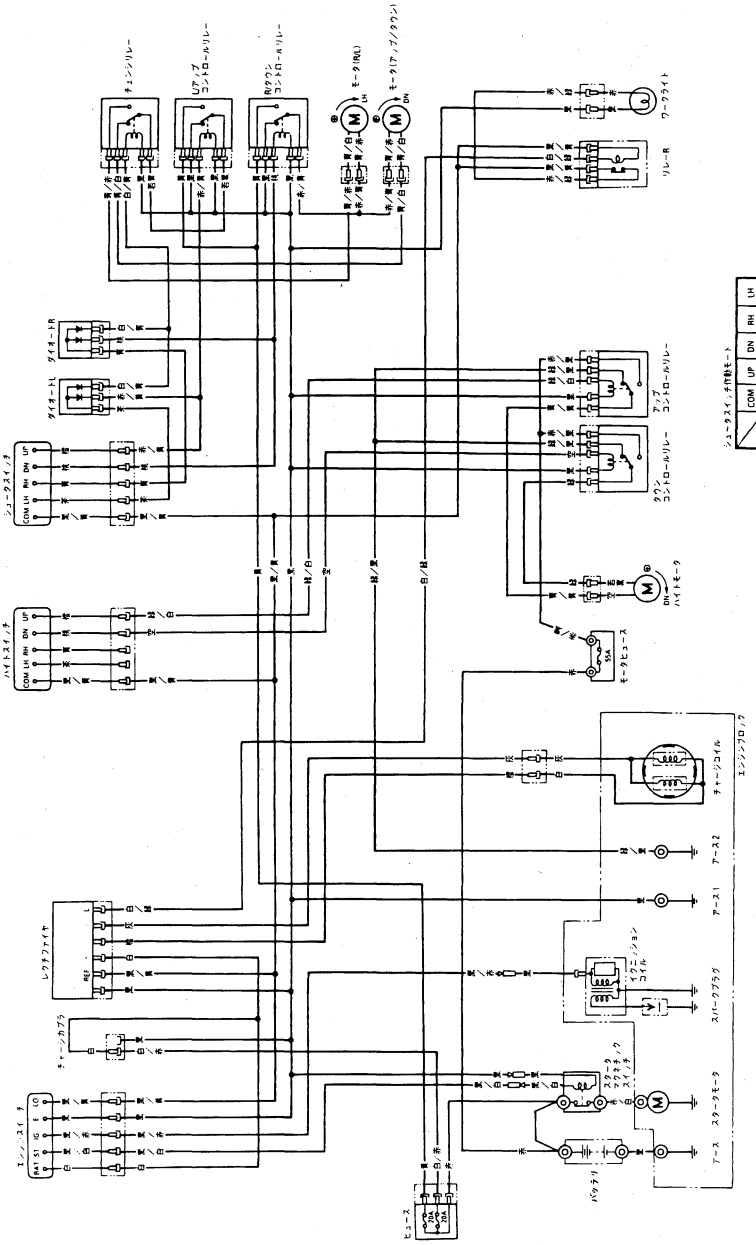
HS1190
HS980



HS1390Z(ローリング機構付きタイプ)
HS1180Z(ローリング機構付きタイプ)



HS1390Z(ローリング機構無しタイプ)
HS1180Z(ローリング機構無しタイプ)



メ　　モ

メ　　モ

メ　　モ

HONDA

The Power of Dreams

30766724
00X30-766-7241

K1:HS1190
Ⓢ ⓃⒽⒸ 500.2001.11
©2001 本田技研工業株式会社